K－754

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成５～11年度－

2001

山形市教育委員会

山形市埋蔵文化財調査年報

－平成５～11年度－

平成13年３月

山形市教育委員会

序

山形市内には、国指定史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」をはじめ、約３００箇所ほどの埋蔵文化財を包蔵する遺跡が確認されています。これらの遺跡は、郷土の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において、住民福祉の向上を目的とした各種の社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合がおおくなっています。特に、平成５年度以降は、市内各地域で大規模な土地区画整理事業が展開されたこともあり、発掘調査の件数及び調査面積が、急激に増大しているところです。また、史跡「山形城跡」や「鳴遺跡」の保存や整備を目的とした発掘調査も、継続されいるところです。

いうまでもなく、現場における発掘調査とともに、調査成果の整理と報告、さらにその活用は、埋蔵文化財保護行政の重大な責務であります。山形市教育委員会におきましても、この責務を果たすべく、鋭意努力しているところでありますが、これまでの調査全てに関する本報告書の刊行までには、今しばらく時間を要するというのが現状です。このことから、このたび平成５年度から平成１１年度にかけて実施した発掘調査ついて、発掘調査概報として取りまとめることにいたしました。

本書が、埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いであります。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚くお礼申し上げます。

平成１３年３月

山形市教育委員会
教育長　相田　良一

例　言

1．本書は平成５年度から平成11年度に山形市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査を総括したものである。
2．調査の概要では、試掘調査については、本書をもって報告とし、今後報告書を作成する予定のあるものについては略述するにとどめた。また既に報文のあるものは割愛した。
3．本書の作成・執筆は、江川隆・武田和宏・五十嵐貴久・植松薫・齋藤仁・須藤英之・國井修が担当した。編集は、國井修が担当し、全体については江川隆が監修した。
4．出土遺物、調査記録類については、山形市教育委員会が一括保管している。

凡　例

1．本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。
　ＳＩ・ＳＴ‥竪穴住居跡　ＳＢ‥掘立柱建物跡　ＳＫ‥土坑　ＳＧ‥河川跡
　ＳＤ‥溝跡・溝状遺構　ＳＥ‥井戸跡　ＳＰ‥ピット　ＳＸ‥性格不明遺構　ＥＰ‥柱穴
　ＳＦ‥土塁　ＥＬ‥炉跡・竈　ＴＰ・ＴＴ・Ｔｒ‥試掘坑・試掘トレンチ
2．遺構番号は、原則として現地調査段階での番号を踏襲している。
3．挿図中の方位は真北を示しているが、一部磁北を示すものもある。
4．遺構実測図・遺物実測図等の縮尺は、各々表示している。
5．その他、必要に応じてその都度脚注を付している。

目　次

第Ⅰ章　埋蔵文化財保護の動向
調査の方法……國井修‥1
平成５年度から11年度の調査状況……國井修‥1
第Ⅱ章　発掘調査の概要
山形城……五十嵐貴久‥8
双葉町・城南町一丁目……齋藤仁・須藤英之‥10
鳴土地区画整理に伴う分布調査（梅野木前１・梅野木前２・梅野木塚・田端稲荷塚）
……武田和宏‥12
河原田……武田和宏‥14
若宮の椙……植松薫‥16
吉原Ⅰ……植松薫‥18
吉原Ⅱ……武田和宏‥22
吉原Ⅲ……植松薫‥24
吉原Ⅳ……武田和宏‥26
吉原Ⅴ……武田和宏‥28
吉原Ⅵ……植松薫‥30
吉原Ⅶ……國井修‥32
成沢西……武田和宏‥34
観音堂……五十嵐貴久‥36
石田……武田和宏‥38
西の宮……武田和宏‥40
中野目Ⅰ・中野目Ⅱ……五十嵐貴久‥42
一ノ坪……武田和宏‥44
大森斉当……武田和宏‥46
中里……武田和宏‥48
第Ⅲ章　総括……國井修‥50

表

表１　平成５年度発掘調査一覧……1
表２　平成６年度発掘調査一覧……2
表３　平成７年度発掘調査一覧……2
表４　平成８年度発掘調査一覧……2
表５　平成９年度発掘調査一覧……3
表６　平成10年度発掘調査一覧……3
表７　平成11年度発掘調査一覧……4
表８　埋蔵文化財発掘調査報告書一覧……4

挿　図

第１図　遺跡位置図（１）……5
第２図　遺跡位置図（２）……6
第３図　遺跡位置図（３）……6
第４図　遺跡位置図（４）……6
第５図　遺跡位置図（５）……6
第６図　遺跡位置図（６）……6
第７図　史跡山形城跡
　本丸大手門発掘調査位置図……9
第８図　双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡
　調査概要図……11
第９図　嶋土地区画整理分布調査概要図……13
第10図　河原田遺跡遺構平面図……15
第11図　若宮の桶跡遺構配置図……17
第12図　吉原Ⅰ遺跡調査概要図……20
第13図　吉原Ⅰ遺跡遺構配置図……21
第14図　吉原Ⅱ遺跡遺構配置図……23
第15図　吉原Ⅲ遺跡遺構配置図……25
第16図　吉原Ⅳ遺跡調査概要図……27
第17図　吉原Ⅳ遺跡遺構配置図……27
第18図　吉原Ⅴ遺跡調査概要図……29
第19図　吉原Ⅵ遺跡遺構配置図……31
第20図　吉原Ⅶ遺跡調査概要図……33
第21図　吉原Ⅶ遺跡遺構配置図……33
第22図　成沢西遺跡調査概要図……35
第23図　成沢西遺跡遺構配置図……35
第24図　観音堂遺跡概要図……37
第25図　石田遺跡調査概要図……39
第26図　石田遺跡試掘概要図……39
第27図　西ノ宮遺跡調査概要図……41
第28図　西ノ宮遺跡遺構配置図……41
第29図　中野目Ⅰ遺跡遺構配置略図……43
第30図　中野目Ⅱ遺跡遺構配置図……43
第31図　中野目Ⅰ・Ⅱ遺跡概要図……43
第32図　一ノ坪遺跡調査概要図……45
第33図　一ノ坪遺跡遺構配置図……45
第34図　大森斉当遺跡調査概要図……47
第35図　大森斉当遺跡遺構平面図……47
第36図　中里遺跡調査概要図……49
第37図　中里遺跡遺構配置図……49

第Ⅰ章　埋蔵文化財保護の動向

調査の方法

本教育委員会においては、各事業との調整を行い、埋蔵文化財の保護を図るために、開発の際には事前に調査を実施している。その方法については、山形県教育委員会に準じ、以下のように区分している。

（1）A調査(現地確認調査・表面踏査・聴き取り)

現地に赴き、地形観察、表面踏査、周辺住民からの聴き取り等により、遺跡存在する可能性とその凡その範囲を推定する。

（2）B調査(試掘調査)

遺跡もしくは遺跡が所在する可能性のある区域について、その範囲内に試掘坑を設定し、遺構・遺物の分布範囲や遺構確認面までの深さ等を確認し、その性格を明らかにする。その結果に従い、各種事業との協議や調整の際の基礎資料とする。

（3）C調査(発掘調査)

A・B調査の結果、遺跡の現状保存を図ることが出来ない場合、あるいは学術的に調査が必要な場合について実施する。

平成５年度～11年度の調査状況

平成５年度から平成11年度の調査状況は下表（表１～７）の通りである。なお、各遺跡の概要については、第Ⅱ章に示している。

表１　平成５年度埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	調査原因	調査区分			県遺跡番号	備　考
			A	B	C		
	白山	白山土地区画整理事業	○	○			調査により、不明瞭な遺物包含層が認められるものの、遺跡は所在しなかった。
	南館	南館土地区画整理事業	○	○			A調査において、遺物の散布が認められたが、B調査を実施したところ、客土に伴うものであることが確認された。よって遺跡は所在しない。
馬上台	陣場新田	馬上台土地区画整理事業	○	○		平成５年度新規	
西の宮	蔵王半郷字西の宮	表蔵王工業団地造成	○	○	○	平成５年度新規	第１次調査
戸刈田	蔵王半郷字戸刈田		○	○	○	６０	西の宮遺跡と同時に調査を実施したが、遺構・遺物ともに認められなかった。遺跡は消滅したと推定される。
鳩	鳥	鳩土地区画整理事業		○		4	既報刊行
梅野木前１	梅野木前			○		平成３年度新規	
梅野木前２	梅野木前			○		平成３年度新規	
田端稲荷塚	田端			○		平成３年度新規	
梅野木前塚	梅野木前			○		平成３年度新規	

表２　平成６年度埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	調査原因	調査区分			県遺跡番号	備　考
			A	B	C		
若宮の楯	吉原字館の内	吉原土地区画整理事業	○			１０８	
吉原Ⅰ	吉原字若宮		○			平成８年度新規	
吉原Ⅱ	三つ江		○			平成８年度新規	
成沢西	桜田南	成沢土地区画整理事業	○			平成10年度新規	
観音堂	上桜田・青田	上桜田土地区画整理事業	○			平成11年度新規	
西の宮	蔵王半郷字西の宮	表蔵王工業団地造成			○	平成５年度新規	第２次調査
馬上台	陣場新田	馬上台土地区画整理事業			○	平成５年度新規	報告書刊行
山形城	霞城町	霞城公園整備事業			○	１	概報刊行・第１次調査
	高原	民間宅地造成	○				遺跡所在せず
横手区	松原字横手	民間工場拡張工事		○		７５	過去に多数の仏教関係遺物が出土したが、事業範囲内に遺跡は所在しなかった。

表３　平成７年度埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	調査原因	調査区分			県遺跡番号	備　考
			A	B	C		
若宮の楯	吉原字館の内	吉原土地区画整理事業		○		１０８	
吉原Ⅰ	吉原字若宮			○		平成８年度新規	
吉原Ⅱ	三つ江			○		平成８年度新規	
山形城	霞城町	霞城公園整備事業			○	１	概報刊行・第２次調査
成沢西	桜田南	成沢土地画整理事業		○		平成10年度新規	
	末広町	マンション建設		○			山形西高敷地内遺跡に隣接することから、調査を実施したが、遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。

表４　平成８年度埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	調査原因	調査区分			県遺跡番号	備　考
			A	B	C		
山形城	霞城町	霞城公園整備事業			○	１	第３次調査
吉原Ⅰ	吉原字若宮	吉原土地区画整理事業		○		平成８年度新規	
吉原Ⅱ	三つ江			○		平成８年度新規	
吉原Ⅲ	若宮			○		平成９年度新規	
成沢西	桜田南	成沢土地画整理事業		○		平成10年度新規	範囲の変更
	門伝	山形西公園(予定地)		○			遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。
	高原	民間宅地造成		○			県指定史蹟高原古墳に隣接しているが、遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。
	富神前	特別養護老人ホーム建設		○			遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。

表5　平成9年度埋蔵文化財調査一覧

遺跡名	所在地	調査原因	調査区分 A	調査区分 B	調査区分 C	県遺跡番号	備考
吉原Ⅱ	三つ江	吉原土地区画整理事業		○	○	平成8年度新規	
吉原Ⅲ	若宮			○		平成9年度新規	
吉原Ⅳ	三つ江			○		平成9年度新規	
吉原Ⅴ	三つ江			○		平成9年度新規	
吉原Ⅴ	三つ江	個人住宅建設			○	平成9年度新規	
双葉町	双葉町一丁目	工場移転に伴う残土処理	○	○	○	平成9年度新規	
城南町一丁目	城南町一丁目	個人住宅建設			○	平成9年度新規	第1次調査
城南町一丁目	城南町一丁目	山形駅西口再開発事業		○	○	平成9年度新規	県教委と共同調査 市道部分　第2次調査
山形城	霞城町	霞城公園整備事業			○	1	第4・5次調査
大森斉当	大森	特別養護老人ホーム建設		○	○	平成9年度新規	
芳沢経塚	芳沢字小経塚山	東山形線西山形変電所DT引込工事		○		昭和53年度新規	過去に遺物が出土し、土壇等も認められたといわれるが、事業予定地内は削平を受けており、遺跡は所在しなかった。
雀打B	滝平字雀打場			○		昭和53年度新規	遺構・遺物とも認められず、事業予定地内に遺跡は所在しなかった。
	岩波	産業廃棄物処分場建設工事		○			遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。
	吉原	雇用促進住宅建設候補地		○			吉原遺跡群に隣接することから調査を実施したが、遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。

表6　平成10年度埋蔵文化財調査一覧

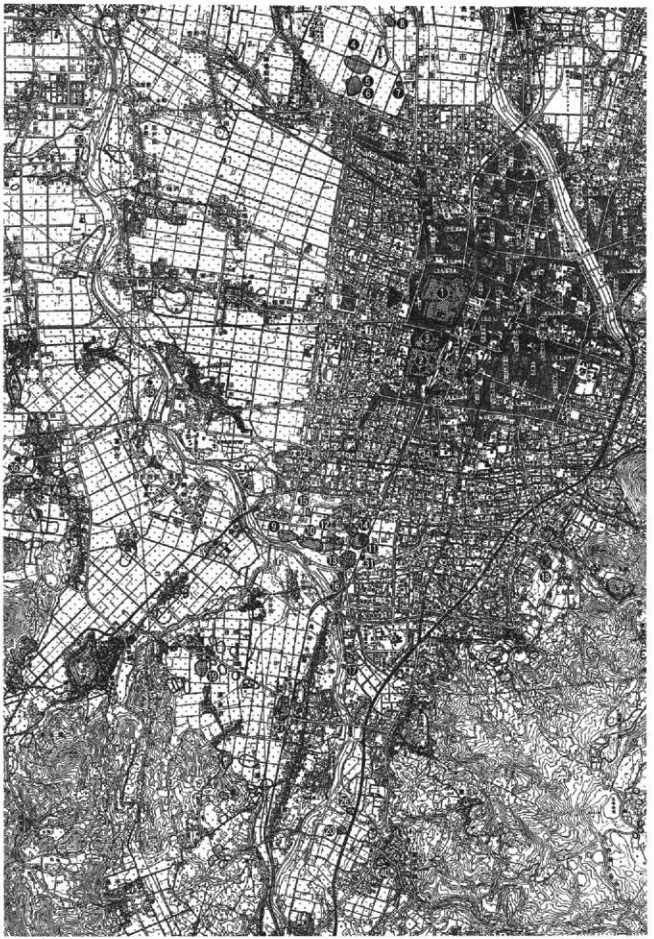
遺跡名	所在地	調査原因	調査区分 A	調査区分 B	調査区分 C	県遺跡番号	備考
双葉町	双葉町一丁目	工場移転に伴う残土処理			○	平成9年度新規	
若宮の稲	吉原字館の内	吉原土地区画整理事業			○	108	
吉原Ⅰ	吉原字若宮				○	平成8年度新規	
吉原Ⅲ	三つ江			○		平成9年度新規	
山形城	霞城町	霞城公園整備事業			○	1	第6次調査
成沢西	桜田南	成沢土地区画整理事業			○	平成10年度新規	第1次調査
一ノ坪	漆山字一ノ坪	立谷川北志田線道路改良計画	○	○		平成9年度新規	
観音堂	上桜田・青田	芸工大前土地区画整理事業		○		平成11年度新規	事業名変更
	香澄町字大宝寺	JR山形駅構内開発事業		○			遺跡所在せず
	山寺	仮称山寺線道路改良計画	○				事業予定地は現道の山側にあり、遺跡が所在する可能性はなかった。
	幸町	(仮称)中央保育園並びに子育て支援センター整備計画		○			遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。
	蔵王半郷字戸刈田	携帯電話無線基地局建設事業		○			遺構・遺物とも認められず、遺跡は所在しなかった。

表7　平成11年度埋蔵文化財調査一覧

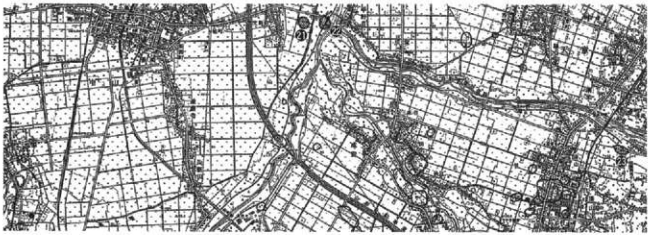
遺跡名	所在地	調査原因	調査区分			県遺跡番号	備　考
			A	B	C		
双葉町	双葉町一丁目	工場移転に伴う残土処理			○	平成９年度新規	
双葉町	双葉町一丁目	山形駅西口再開発事業			○	平成９年度新規	
城南町一丁目	城南町一丁目			○	○	平成９年度新規	第３次調査
若宮の堀	吉原字館の内	吉原土地区画整理事業		○	○	平成９年度新規	
吉原Ⅰ	吉原字若宮				○	平成８年度新規	
吉原Ⅲ	三つ江				○	１０８	
吉原Ⅵ	柳原	特別養護老人ホーム建設		○	○	平成11年度新規	
山形城	霞城町	霞城公園整備事業			○	１	第７次調査
成沢西	桜田南	成沢土地区画整理事業			○	平成10年度新規	第２次調査
河原田	今塚字河原田	鳴土地区画整理事業			○	平成４年度新規	
吉原Ⅶ	吉原	民間宅地開発事業	○	○		平成11年度新規	
中野目Ⅰ	中野目字赤坂	住宅団地開発事業	○	○		平成11年度新規	
中野目Ⅱ	中野目字赤坂		○	○	○	平成11年度新規	
梅在家	下反田		○			平成11年度新規	河川敷の土取りの際に、付近の住民から遺構と思われる土色変化があるとの報告を受け、現地を確認したところ、遺跡が確認された。その後、県教育委員会により試掘調査が実施され、遺跡として登録された。
一ノ坪	漆山字一ノ坪	立谷川北志田線道路改良工事		○		平成９年度新規	
石田	谷柏字石田	東北電力変電所建設工事		○		８２	
中里	中里38	山形市立高楯中学校グランド拡張工事		○	○	１８３	

表8　埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

書　名	発行年月日	発行機関	備　考	集番号
熊ノ前遺跡第１次調査報告書	1975/5	山形市教育委員会	第１次調査報告書	1
熊ノ前遺跡第３次発掘調査報告書	1978/11	山形市教育委員会	第３次調査報告書	2
熊ノ前遺跡	1979/3/31	山形県教育委員会 山形市教育委員会	第Ⅳ次調査概報	
山形城跡発掘調査報告書	1981/3	山形市教育委員会		3
菅沢古墳二号墳発掘調査報告書	1987	山形市教育委員会		4
菅沢２号墳	1991	山形市教育委員会		5
鳴遺跡発掘調査概報	1994	山形市教育委員会		6
馬上台遺跡発掘調査報告書	1995/3	山形市教育委員会		7
山形城本丸発掘調査概報	1996/3	山形市教育委員会	平成６・７年度調査概報	8



第1図　遺跡位置図（1）



第２図　遺跡位置図（２）

第３図　遺跡位置図（３）

第４図　遺跡位置図（４）

第５図　遺跡位置図（５）

第６図　遺跡位置図（６）

1：山形城（近世／城館跡）　2：双葉町遺跡（古墳～近現代／集落跡・城館跡・練兵場跡）
3：城南町一丁目遺跡（奈良～近現代／集落跡・城館跡・練兵場跡）
4：梅野木前1遺跡（奈良・平安／集落跡）　5：梅野木前2遺跡（奈良・平安／集落跡）
6：梅野木塚（近世以降／塚跡）　7：田端稲荷塚（近世以降／塚跡）
8：河原田遺跡（弥生中期・奈良・平安／集落跡）　9：若宮の楯（中世／城館跡）
10：吉原Ⅰ遺跡（平安・中世／集落跡）　11：吉原Ⅱ遺跡（平安／集落跡）
12：吉原Ⅲ遺跡（平安／集落跡）　13：吉原Ⅳ遺跡（平安／集落跡）
14：吉原Ⅴ遺跡（縄文中期／包蔵地）　15：吉原Ⅵ遺跡（平安／集落跡）
16：吉原Ⅶ遺跡（平安／集落跡）　17：成沢西遺跡（平安・中世／集落跡）
18：観音盛遺跡（平安・中世・近世／集落跡）　19：石田遺跡（縄文中期・平安／集落跡）
20：西の宮遺跡（平安・中世／集落跡）　21：中野目Ⅰ遺跡（古墳・奈良・平安／集落跡）
22：中野目Ⅱ遺跡（奈良・平安／集落跡）　23：一ノ坪遺跡（縄文晩期・古墳・奈良・平安／集落跡）
24：大森斉当遺跡（縄文前期・奈良・平安／集落跡）　25：中里遺跡（奈良・平安時代／集落跡）
26：戸刈田遺跡（縄文中期／集落跡）　27：横手区遺跡（奈良・平安／集落跡）
28：芳沢経塚（中世／経塚）　29：雀打B（奈良・平安／集落跡）
30：梅在家遺跡（奈良・平安／集落跡）　31：白山土地区画整理事業調査地
32：南館土地区画整理事業調査地　33：高原民間宅地造成事業調査地
34：末広町マンション建設用地調査地　35：山形西公園予定地調査地
36：特別養護老人ホーム建設事業調査地　37：民間産業廃棄物処分場建設事業調査地
38：ＪＲ山形駅構内開発事業調査地
39：(仮称) 中央保育園並びに子育て支援センター整備計画調査地
40：携帯電話無線基地局建設事業調査地　41：(仮称)山寺線道路改良計画

第Ⅱ章　発掘調査の概要

史跡　山形城跡

1　調査要項

遺跡番号　県遺跡番号　1
遺跡略号　ＫＪＯ
所在地　山形市霞城町３番
調査原因　史跡整備(本丸大手門)
調査面積　平成８年度　1,800㎡　平成９年度　700㎡
　　平成10年度　900㎡　平成11年度　1,200㎡
調査期間　平成８年度Ｃ調査　1996／６／10～９／30
　　平成９年度Ｃ調査　1997／11／26～12／９　1998／３／２～13
　　平成10年度Ｃ調査　1998／５／18～７／31　９／17～10／16
　　平成11年度Ｃ調査　1999／7／1～10／13
調査担当者　平成８～９年度　武田和宏　平成10～11年度　五十嵐貴久

2　調査の経緯

山形城跡は、昭和61(1986)年に国史跡の指定を受け、平成３(1991)年には「二の丸東大手門」の復原整備が完了している。その後、整備事業計画に基づき本丸の整備を目指し調査が進められてきた（武田1996『山形城跡本丸堀発掘調査概報』山形市教育委員会)。平成８年度からは本丸大手門の復原をめざして発掘調査及び石垣の復原工事を行っている。

3　遺跡の立地と環境

山形城跡は馬見ヶ崎川扇状地の扇端部に位置し、市街地のほぼ中央に位置する。一帯は馬見ヶ崎川の氾濫による砂礫層を基盤とした平地に立地しており、「霞城公園」として広く市民に公開されている。

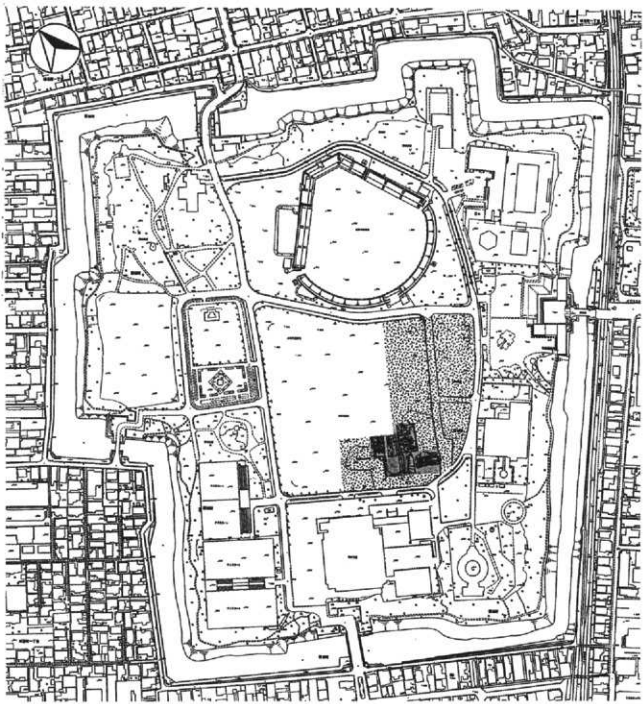
4　検出された遺構と遺物

本丸大手門は、明治期に陸軍の連隊配備に伴い破壊・埋立てられていたが、現地表より下の石垣が残存していた。また、本丸堀内の埋土より多数の石垣石材が出土し、地上部分の石垣を堀内に崩落させたことが分かったほか、絵図にない石垣が見つかるとともにその修復の様子も明らかとなった。また大手橋は、本丸と二の丸をつなぐ橋だが、これを支える橋脚と考えられる木柱が発見された。

遺物は主に本丸堀よりの出土であるが、瓦類が極めて多量に出土しているほか、陶磁器類・金属製品類・工具類・嗜好品類のほか橋の部材と思われる木製品が出土している。

5　まとめ

今回の調査は史跡山形城跡・本丸大手門の整備に関連する発掘調査である。これまで調査により、石垣に関しては、打込みハギ技法の石材が乱積みにより築かれていること、その一部が積み直しにより布積み様に変化していること、また参考にしていた古図よりも北・西に石垣が延びていることなどがわかった。堀も北堀・西堀同様約30mの幅が広い深い堀であり、遺物を多量に包蔵しているほか、大手橋部分では橋脚木柱が残存することなどが明らかとなった。これらは、今後本丸大手門の復原の際に貴重な資料として活用されるだけではなく、近世城郭建築の資料として重要な意味を持つものである。



第７図　史跡　山形城跡本丸大手門発掘調査位置図

双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成９年度新規登録
遺跡略号　ＦＴＢ（双葉町遺跡）・ＪＯＮ（城南町一丁目遺跡）
所在地　双葉町１丁目・城南町１丁目
調査原因　平成９～11年度　山形駅西口再開発事業に伴う（株）東ソー山形工場跡地整備事業
平成10～11年度　山形駅西口再開発事業
調査面積　約80,000㎡
調査期間　平成９年度　Ｂ調査　1997／７　平成９～11年度　Ｃ調査　1997／９～2000／２
調査担当者　平成９年度　武田和宏　齋藤仁　伊藤典子
平成10年度　齋藤仁　須藤英之　植松薫　山沢腰
平成11年度　齋藤仁　須藤英之　武田和宏　植松薫　國井修　岩井良太　石山公亮　高橋拓

2　調査の経緯

山形駅西口地区は山形市都市開発部新都市拠点整備課が主体となり、区画整理事業が実施されている。山形市教育委員会では事業計画地内の（株）東ソー山形工場地内における遺跡の有無を確認するための事前調査を、平成９年７月に実施した。その結果事業区域内に遺跡の所在が明らかになった。その上で開発計画と遺跡の取り扱いに関する協議と調整を、山形市新都市拠点整備課・（株）東ソー山形工場と山形市教育委員会との間で行ってきた。その結果、開発が行われる部分は発掘調査を実施し、記録による保存をはかる運びとなった。

3　遺跡の立地と環境

本遺跡は山形市のほぼ中心で、山形駅の西に隣接した地域に位置する。山形市街地は東から北西に流れる馬見ヶ崎川の扇状地にあるが、遺跡はその扇端部に立地する。

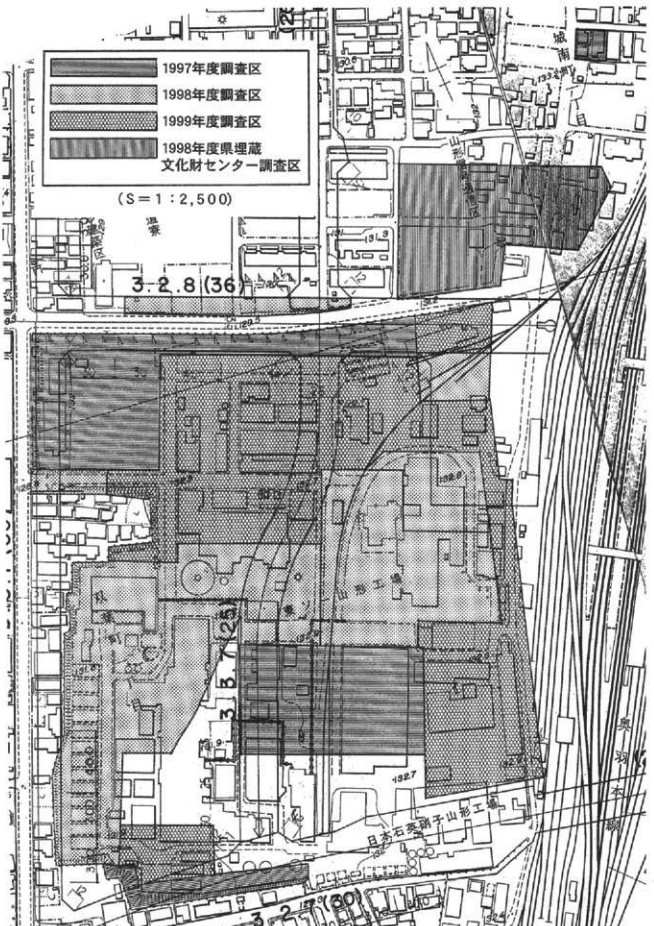
4　検出された遺構と遺物

遺跡の主体は古墳時代前期から平安時代中期にかけての古代の集落跡と近世前期の城下町遺構である。

古代の集落跡は竪穴住居が主体的だが、おそらく平安時代以後は掘立柱建物跡が出現すると思われる。古墳時代前期の住居は炉を伴うものが検出されたが、それ以後の住居はかまどを構築している。かまどの多くは住居のおおよそ北側もしくは北西側に構築されている。その他、10世紀前半と考えられる木組みの井戸が２基検出された。その内、一基は井戸の底部にも隙間なく加工された板が敷き詰められているせいろ型井戸で、その存在が注目される。

近世の遺構は、区画溝・石組み井戸・掘立柱建物跡・地下室状遺構が主体である。遺構の年代幅はほぼ17世紀代で、それ以後の遺構はほとんど認められない。遺物は肥前系陶磁器と瀬戸美濃系陶器が主体で、その他中国製輸入陶磁器・かわらけ・瓦質土器・瓦・古銭・五輪塔・漆器などがある。

その他、縄文時代前期から中期の包含層、13世紀前半の井戸跡、14世紀の方形館が検出された。



第８図　双葉町遺跡・城南町一丁目遺跡年度別調査区域図

鳴土地区画整理事業に伴う分布調査（梅野木前１・梅野木前２・梅野木塚・田端稲荷塚）

1　調査要項

遺跡番号　平成３年度新規登録
所在地　山形市鳴
調査原因　鳴土地区画整理事業
調査面積
調査期間　平成５年度　B調査　1993／11／24～25　12／１～８
調査担当者　平成５年度　江川 隆　武田和宏

2　調査の経緯

平成４年度に、国史跡「鳴遺跡」を含む鳴地区一帯において土地区画整理事業が計画された。これに伴い山形県文化財課による同地域内の表面踏査がなされ、その結果８ヶ所の散布地および遺跡可能性地が確認されている。山形市教育委員会でも同事業に伴う鳴遺跡の範囲確認調査を平成５年の７月から10月にかけて実施しているが、８ヶ所の散布地および遺跡可能性地についてもその有無を確認する必要があることから、平成５年11月から12月にかけて試掘調査を実施した。

3　遺跡の立地と環境

鳴地区は馬見ヶ崎川が形成する扇状地の扇端にあたり、山形市街地の北西に位置する。遠く北側を馬見ヶ崎川が西へ流れ、西を須川が北流し、全体的に北西に緩く傾斜する地形である。現況は当地区を含む一帯が広範な水田地帯となっている。

鳴遺跡は、昭和36年冬に土地の基盤整備事業中に発見され、翌37年から39年にかけて山形大学柏倉亮吉先生を団長とした調査団によって６次にわたって遺跡の一部が調査されている。その結果、土師器・須恵器などの土器や農工具などの木製品が豊富に出土し、古墳時代後期の集落跡で良好な資料が得られる遺跡として昭和41年12月に史跡に指定されている。

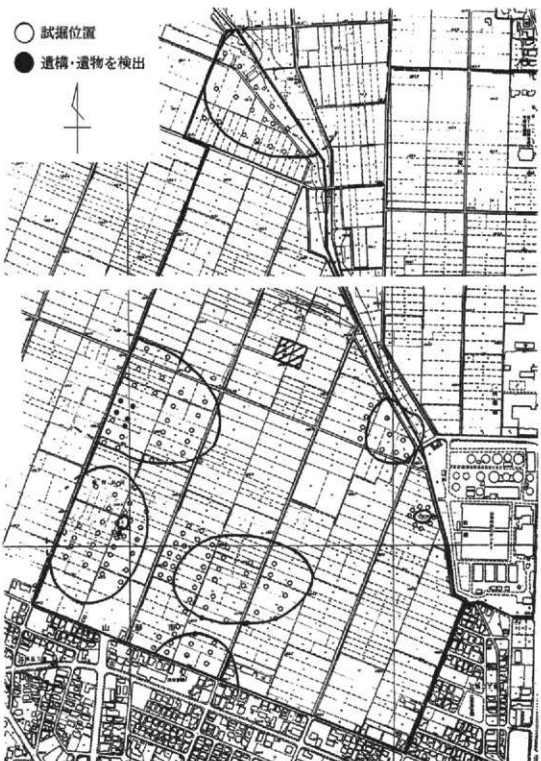
4　検出された遺構と遺物

B調査の結果、遺跡可能性地１～４からは、遺構・遺物とも検出されず、遺跡にはならないと判断された。田端稲荷塚・梅野木塚についても版築などの構造は認められず、また遺物なども出土しなかった。

梅野木前１については、調査区域の西側の畑地に近い部分で柱穴などの遺構や、須恵器・あかやき土器などの破片が検出された。また梅野木前２では、調査区域の中央付近のやや狭い範囲であかやき土器の破片が少々出土したものの、遺構などは確認されなかった。

5　まとめ

以上、８ヶ所の遺跡可能性地のうち、梅野木前１・２の２ヶ所については遺跡と判断された。梅野木前２遺跡は遺跡可能性地とされた範囲内におさまるが、梅野木前１遺跡は、平成３年度の県文化財課の表面踏査で示された通り、調査区域西側の畑地に遺跡の中心があると思われる。



第９図　嶋土地区画整理分布調査概要図

河原田遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成４年度新規登録
遺跡略号　KWD
所在地　山形市河原田
調査原因　嶋土地区画整理事業
調査面積　1,800 ㎡
調査期間　C調査　1999／11／1～12／17　2000／3／6～31
調査担当者　武田和宏　五十嵐貴久　植松薫　齋藤仁　國井修　高橋拓　石山公亮　岩井良太

2　調査の経緯

先に山形県住宅供給公社が主体となり今塚地区で行われていた宅地開発が、隣接する嶋地区で取り組まれてきた土地区画整理と事業が一本化されたことから、この地区においても山形市教育委員会が事業と埋蔵文化財との調整を行なうこととなった。今回の調査は街区道路の新設工事に伴うもので、対象となる調査面積は約1,800 ㎡である。調査期間は当初平成11年11月１日から12月20日を予定していたが、諸事情により冬季間を一時中断とし、翌平成12年３月６日に再開し、３月31日で終了した。なお河原田遺跡は、平成４・５年度に山形県文化財課が実施したB調査により遺跡の範囲が確認されている。

3　遺跡の立地と環境

嶋地区は馬見ヶ崎川が形成する扇状地の扇端にあたり、山形市街地の北西に位置する。遠く北側を馬見ヶ崎川が西へ流れ、西を須川が北流し、全体的に北西に緩く傾斜する地形である。海抜は 105m前後で、現況は当地区を含む一帯が広範な水田地帯となっている。当遺跡の南西側には嶋堰(馬見ヶ崎川の旧河道)が南東から北西方向に、遺跡にほぼ接するように流れる。この堰を挟んで約500m南には国指定史跡「嶋遺跡」(古墳時代後期の集落跡)がある。また当遺跡の約300m北側には「今塚遺跡」(古墳時代前期・平安時代の集落跡)がある。

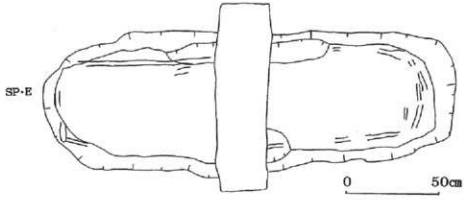
4　検出された遺構と遺物

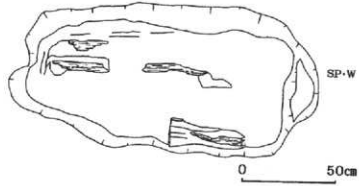
時期的には弥生時代と平安時代の２時期の遺構が確認されている。平安時代のものはすべて溝跡で数条確認されているが、生活に直接関わる遺構は検出されていない。ただし、これらの溝跡からは、あかやき土器や須恵器の破片が多量に出土しており、なかには墨書土器も数点含まれる。溝跡はほぼ平行し、すべて北から南へ流れる。

弥生時代の遺構では、住居跡２棟・墓坑６基・川跡１条などがある。そのうち住居跡は２棟いずれも全面を検出した。しかし耕地整理の影響からか、壁の立ち上がりや床跡などはいずれも検出できず、そのため竪穴住居かどうかは不明である。住居は直径が約 20cm の４～５本を主柱とし、その周囲に直径15cm 程度のやや細めの柱が楕円形に配される。墓坑は検出した６基のうち、１基は壷を使用した土器棺墓で、その他の５基はすべて木棺墓と考えられる。このうち３基からは木棺の一部になると思われる木片や木質が検出された。また他の２基からは、樹皮が墓の床および壁面から敷き詰めたように検出された。そしてこの２基からは壷や浅鉢などの土器がまとまって出土し、なかには赤い顔料で彩色されたものがあった。これらの土器は土器棺墓として使用されたものも含めて、２重の平行沈線で模様が描かれるという共通する特徴が認められる。

5　まとめ

今回の調査で出土した土器には、壷・広口壷・浅鉢などの器種があるが、主に墓からの一括出土である。文様は、２本の平行沈線で重弧文・重圏文・重三角文・重四角文・波状線文が認められ、いわゆる桜井式に相当し、弥生時代中期に属すると思われる。なお調査内容については現在整理途中である。またＳＫ５・９については現在も精査途中であり、さらなる成果が期待される。





第10図　河原田遺跡遺構平面図

若宮の館跡

1　調査要項

遺跡番号　県遺跡番号　１０８

所在地　山形市大字吉原字館ノ内

調査原因　山形市吉原土地区画整理事業地内における都市計画道路の建設工事及び大型店舗建設に伴う敷地造成

調査面積　平成10年度　2,200㎡　平成11年度　1,300㎡

調査期間　A調査　1994／4～5月　B調査　1995／11／7・27
C調査　1998／5／25～7／15　C調査　1999／10／18～11／26

調査担当者　平成10年度　武田和宏　平成11年度　植松薫　石山公亮

2　調査の経緯

本遺跡は「館ノ内」という字名や堀跡がつい近年まで水田などとして残っていたことから館跡として地元の人々には知られていた遺跡である。「山形県中世城館調査報告書」にも若宮館(戦国期)として登録されており、平成7年に実施した試掘調査でも柱穴などの遺構が検出されている。平成9年度、遺跡内に都市計画道路が計画されたため、協議を行った結果、翌年度に記録保存のための発掘調査、また平成11年度は大型店舗の建設工事に先立つ敷地造成が計画されたことから、遺跡が破壊される部分について記録保存の発掘調査を実施した。

3　遺跡の立地と環境

遺跡は須川右岸に接した段丘上に立地する。西辺は一段低い堀跡と思われる部分があり道路となっていた。また東西に走る農道に沿って、堀の痕跡と思われる僅かな段差が確認できる。館跡内部の範囲は東西約110m、南北最大幅約70mを測る。南側は須川の段丘斜面で画され、須川の氾濫等による館跡内部の削平もあったようである。地目は畑・果樹で、付近の標高は115～116.5mを測る。

4　検出された遺構と遺物

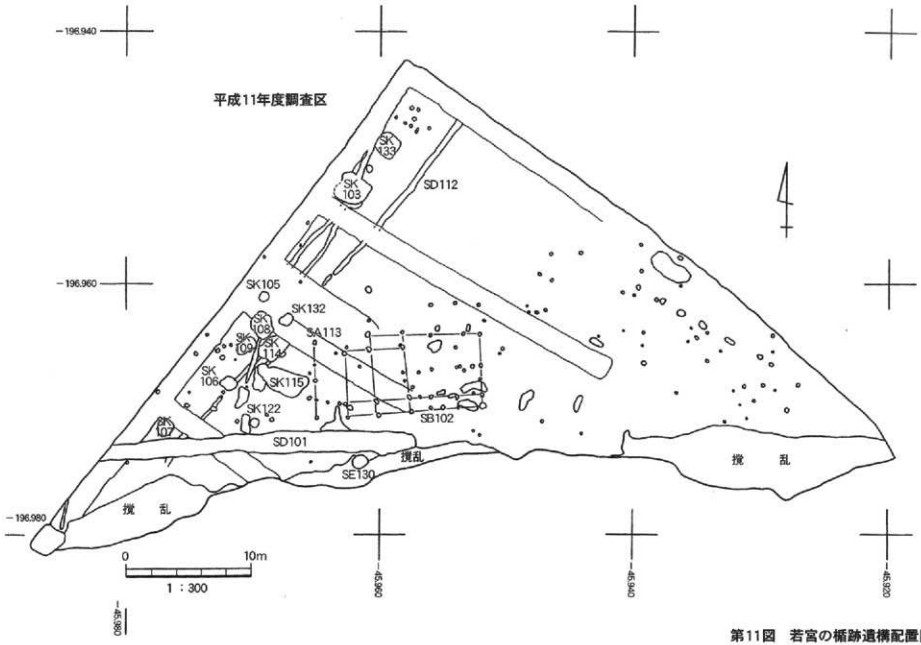
平成10年度は調査区域が西堀の部分にあたり、予想通り堀跡の一部と土坑、柱穴などを検出した。工事の都合上、道路幅を東西15mずつに分けての調査となったため堀跡はトレンチによる調査にとどまっている。堀跡は幅約10m、深さ約2～2.5mで下層より漆器椀の破片が出土している。柱穴などは建物を構成するには至らなかった。表土から、同安窯の青磁碗片が出土している。

平成11年度の調査は館跡と推定される範囲の南東部分にあたり、調査の結果、掘立柱建物跡1棟、溝跡、井戸跡、小鍛冶遺構、土坑などが検出された。主に溝跡より青磁碗片、須恵器系陶器の甕片が出土している。

5　まとめ

調査により、館跡の実際の堀幅や深さを確認することができ、また掘立柱建物や井戸跡が検出されたことにより館跡内部の状況が少しずつ明らかになってきた。しかし、鎌倉時代の遺物が出土していることから、戦国期だけでなくさらに古い鎌倉時代にもこの地が利用されたことが考えられる。

吉原Ⅰ遺跡の発掘調査でも中世の遺構が確認されており、今後遺跡周辺の環境等も含め全体的に検討していかなければならない。



第11図　若宮の堀跡遺構配置図

吉原Ⅰ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成6年度新規登録
所在地　山形市大字吉原字若宮
調査原因　山形市吉原土地区画整理事業地内における都市計画道路及び街区道路の建設工事並びに大型店舗建設に伴う敷地造成
調査面積　平成10年度　7,600㎡　平成11年度　700㎡
調査期間　A調査　1994／4～5月　B調査　1995／11／7～11／27
C調査　1998／5／11～7／7　7／13～9／30　10／12～11／13
C調査　1999／10／18～11／26
調査担当者　平成10年度　武田和宏　五十嵐貴久　植松薫
平成11年度　植松薫　石山公亮

2　調査の経緯

本遺跡は吉原土地区画整理事業の開始にあたり新規に発見された遺跡である。平成5年に事業地内の遺跡の有無についての照会がなされ、平成6年の表面踏査により遺跡の存在が確認された。平成7年度は試掘調査により遺跡の時期などの詳細な情報と遺跡範囲などが確認された。平成9年度、事業内の道路工事の計画が具体化されたことにより、遺跡の保護と開発に関しての協議を重ねた結果、平成10年度より記録保存のための発掘調査を開始することになり、平成10年5月11日から11月13日まで断続的に調査を実施した。調査面積は合わせて7,600㎡を測る。翌平成11年度は大型店舗の建設工事に伴う敷地造成に関わり、遺跡が破壊される部分、約700㎡を調査している。

3　遺跡の立地と環境

本遺跡は山形市の南部、市街地から約3㎞離れた山形市大字吉原字若宮に所在する。この付近は馬見ヶ崎川の扇状地扇端部にあたり、遺跡は須川右岸の微高地上に立地している。北側を犬川、南側を竜山川が西流しており、本遺跡は須川と犬川、竜山川の合流点近くに位置し、旧羽州街道が接していたことからも水・陸上交通の要衝であったと考えられる。遺跡範囲は南北110m、東西240mに広がる。地目は畑・果樹で周囲の水田面よりも一段高い微高地に遺跡は立地する。付近の標高は118～119mを測る。

4　検出された遺構と遺物

調査の結果、奈良・平安時代と中世の大きく二つの時代の遺構と遺物が検出された。

奈良・平安時代の遺構は調査区の東側に多く検出され、主な遺構は掘立柱建物跡19棟をはじめ、土坑、溝跡、柱穴などである。掘立柱建物群はほとんどが主軸を揃えて建てられており、また規模も2×3間のものがほとんどである。2×2間の総柱の建物跡も3棟検出された。中には柱痕跡の覆土に土器片と共に焼土や炭が多量に含まれている、火災に遭ったと思われる建物も確認された。建物群の時期は遺構の切りあいや重複関係等から最低でも2時期以上あると考えられるが詳細は今後の検討課題である。年代は柱穴等から出土した土器から8世紀後葉～9世紀初頭と考えられる。また建物群と同方向の溝跡も検出されている。この建物群を区画するものと思われる。奈良・平安時代の遺物では須恵器坏・蓋・甕、土師器坏・甕などが出土している。土師器坏は非ロクロで内面にミガキ、黒色処理がなされている。底部と体部の境目に段を持つものも認められる。須恵器坏は底部の切り離しが全て回転ヘラ切のもので

ある。

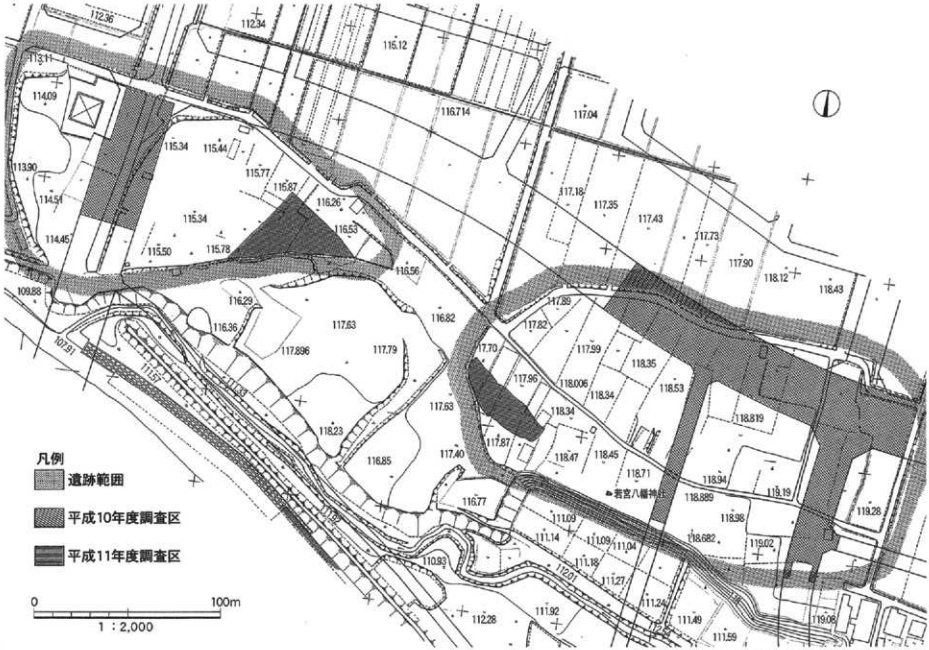
中世の遺構は調査区の中央から西側にかけて検出されている。掘立柱建物跡７棟、竪穴状遺構２棟、堀跡、井戸跡、土坑、溝跡、柱穴等である。掘立柱建物跡は７×４間、５×４間の東西あるいは南北両面に庇を持つ比較的大型の建物跡の周囲に２×２間などの小型の建物を配置している。主軸方向は南北を基調としており、重複関係から少なくとも２時期以上あると考えられる。奈良・平安時代の建物跡と比較すると柱穴の規模が小さく遺物の出土も少ない。堀跡は幅2.5～５m、深さは１～1.4m前後で、上述の建物群を区画するためのものと考えられる。竪穴状遺構は２棟確認され、一辺２～３mの方形で深さは深いもので40 cmを測る。そのうちの一つは柱穴が壁際にめぐることが確認された。覆土内より13～14世紀頃と考えられる瓷器系陶器の擂鉢の口縁部が出土している。井戸跡は上述の堀跡の内部に数基ある他はほとんどが堀跡の外側に構築されている。直径１m前後の素掘りのもので深さは深いもので2.5m近くを測る。覆土から北宋銭や曲物などの木製品がわずかながら出土している。遺物では主に堀跡から須恵器系陶器の擂鉢や瓷の破片、砥石、石鉢などが出土している。時期が特定できるような遺物は少なく、詳細な時期は今後整理していく中での検討課題である。

平成11年度は吉原Ⅰ遺跡の南西の縁辺部分を調査した。調査の結果、奈良・平安時代の溝跡と中世の井戸跡、土坑、時期不明の柱穴などの遺構が検出された。奈良・平安時代の溝跡の底面からはクワなどの工具を使った痕跡も検出された。中世の遺構では素掘りの井戸跡や、焼けた石や凹石などが捨てられた擂鉢状の土坑も検出されている。遺物は奈良・平安時代の須恵器坏片や北宋銭が出土している。

5　まとめ

平成10・11年度の調査の結果、本遺跡は奈良・平安時代と中世の集落跡であることが確認された。奈良・平安時代では当時の集落跡に一般的な竪穴住居跡は検出されず、掘立柱建物を中心とする遺構が検出された。建物群は主軸を揃えて建てられており、規模や柱穴の掘り方の大きさ等からみて、役所的な性格を持ったものと考えられる。方向は真北を基調とするもの、真北からやや西に振れるものの大きく２つに分けられる。建物群は方向、重複関係等から少なくとも２時期以上はあると考えられるが、詳細は今後の検討課題である。また、この建物群を区画すると考えられる溝跡も検出されている。建物群の時期は柱穴などから出土した遺物から奈良時代後半～平安時代初め頃と考えられる。

中世では掘立柱建物群とそれを方形に取り囲む堀跡、竪穴状遺構、井戸跡や土坑群が検出された。掘立柱建物群は堀跡の内部に構築され、井戸跡や土坑群が堀跡の外部に多く検出されている。また、竪穴状遺構は掘立柱建物群が検出される地区とは異なる場所に構築されており、これも溝跡によって区画がなされている。集落内の機能・役割などが遺構の検出される場所に表れているものと考えられる。時期を特定できる遺物が少なく詳細な時期は不明であるが、竪穴状遺構から13～14世紀の瓷器系陶器の擂鉢片が出土していることや、堀跡からは須恵器系陶器の甕片や石鉢が出土していることなどから、時期幅が多少あったものと考えられる。堀跡内部の庇を持つ大型の建物群は吉原地区一帯を治める有力者の居住域と推測される。



第12図　吉原Ⅰ遺跡・若宮の幡跡調査概要図

第13図　吉原Ⅰ遺跡遺構配置図

吉原Ⅱ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成８年度新規登録
所在地　山形市三つ江
調査原因　山形市吉原土地区画整理事業
調査面積　2,600 ㎡
調査期間　平成７年度　A調査　1995／4
平成８年度　B調査　1996／10／29～30
平成９年度　C調査　1997／4／14～6／17
B調査　1997／7／22～8／8（範囲確認調査）
調査担当者　平成７～８年度　武田和宏
平成９年度　武田和宏　齋藤仁

2　調査の経緯

平成７年度、山形市吉原地区において民間の組合施行による土地区画整理事業が開始されることとなった。事業面積が794,000 ㎡と大規模で、かつ事業予定地内に周知の遺跡（若宮の楯）が存在していたこともあり、同年４月には事業地内全域での表面踏査を実施した。その結果、若宮の楯と遺跡可能性地①・②を確認した。この結果を受けて、同年11月に若宮の楯と遺跡可能性地①については試掘調査を実施し、遺跡であることを確認している。遺跡可能性地②については、平成８年10月に試掘調査を実施した。その結果、掘立柱建物跡の掘り方などの良好な遺構が確認され、これを「吉原Ⅱ遺跡」として、また前年に確認した遺跡可能性地①については「吉原Ⅰ遺跡」としてそれぞれ新規登録している。平成９年度には土地区画整理事業に伴う街区道路の整備が急がれることになり、同年４月から2,600 ㎡について発掘調査を実施した。その結果、掘立柱建物跡を中心に構成される官衙に関連する遺跡として注目すべき調査成果が得られた。その後、文化庁の指導を受け、同年７月から８月にかけて同遺跡の範囲確認調査を実施している。

3　遺跡の立地と環境

吉原地区は山形市街地南部にあり、東方の蔵王山麓から流れ出る犬川や竜山川によって形成された小規模な扇状地形の扇端付近にあたると思われる。南から流れてくる須川は、吉原地区でやや西に流路を変えてさらに北流してゆく。そのため、吉原Ⅰ遺跡や若宮の楯の南辺はこの須川によって侵食を受けて段丘状になっている。山形盆地への入り口でもあるこの地区は、旧くは羽州街道がこの地区を通っていたとされる。また須川にも接していることから、旧くから交通の要衝であったと考えられている。遺跡から南西方向にある小松原丘陵上一帯には古代の窯跡群が確認されている。吉原Ⅱ遺跡は、吉原地区で確認されている遺跡群のなかでもっとも東に位置する。現況は工場および水田で、標高は約 123mである。

4　検出された遺構と遺物

検出された遺構は、掘立柱建物跡が12棟・竪穴住居跡が１棟・その他、土壙・溝跡・河川跡・ピット群などで、掘立柱建物跡12棟のうち７棟は一辺が約80cm～１mほどの大きな掘り方を有する官衙的な建物群である。これらの建物は基本的に南北方向に長軸があるが、SB06・07の２棟はその他の建物と長

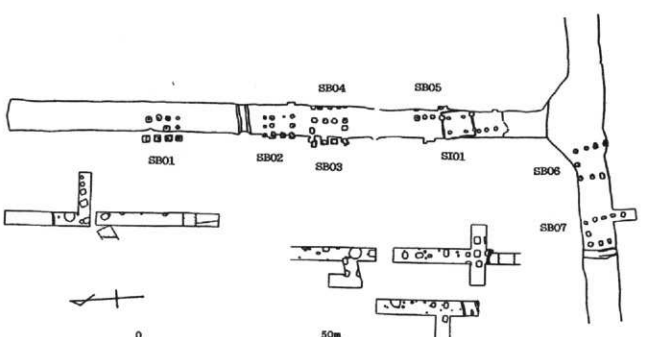
軸方向がやや異なる。またＳＢ06は柱間が約９尺で、その他の建物が６～７尺であるなど相違点が認められる。ＳＢ01・02などでは一部柱根が残存しており、その直径は約35cm前後で非常に太い。なかには礎盤を敷いた柱も確認された。

その他の遺構では、溝跡が数条検出されているが、柵列などは検出されなかった。この溝跡は、基本的に南北または東西方向に走るようである。遺物はおもに竪穴住居跡や河川跡などから出土したが、量的には少ない。その内容は、須恵器ではヘラ切りの坏や甕、土師器では内黒の坏や鉢などである。これらのうち官衙に関連するような遺物としては、墨書土器が５点ほどあるが判読は難しい。このうちの１点は硯に転用されている。

5　まとめ

遺跡の年代は、出土遺物から８Ｃ末～９Ｃ前半と推定される。その中でも遺構の切り合いや建物の配置状況などから、２～３時期の変遷があったと考えられる。本調査終了後の７～８月には範囲確認調査を実施しており、その結果同様の建物跡が周辺からさらに３～４棟確認されるなど、吉原Ⅱ遺跡は約22,000㎡の広がりを持った官衙に関連する遺跡と推定される。

調査内容の詳細については現在整理途中である。



第14図　吉原Ⅱ遺跡遺構配置図

吉原Ⅲ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成９年度新規登録
所在地　山形市若宮
調査原因　吉原土地区画整理事業地内における都市計画道路建設工事
調査面積　2,700 ㎡
調査期間　平成９年度　B調査 1997／７／22～８／11　1997／８／27～８／29
　　平成10年度　B調査 1998／９／29～30　C調査 1998／４／12～６／15
調査担当者　平成９年度　武田和宏
　　平成10年度　B調査　武田和宏　C調査　植松薫　五十嵐貴久

2　調査の経緯

本遺跡は平成９年度に吉原Ⅱ遺跡の範囲確認を実施した際に発見された遺跡である。試掘調査により、掘立柱建物跡などの遺構、須恵器などの遺物が確認され、吉原Ⅱ遺跡とは連続しない事から新たに吉原Ⅲ遺跡として登録を行った。翌年度に遺跡内に都市計画道路の工事が計画され、予定地内の遺跡の有無を再度確認したところ同じく遺構や遺物が確認された。この結果に基づき協議を行った結果、記録保存のための発掘調査を実施することとなり、現地調査を同年４月12日～６月15日まで実施した。

3　遺跡の立地と環境

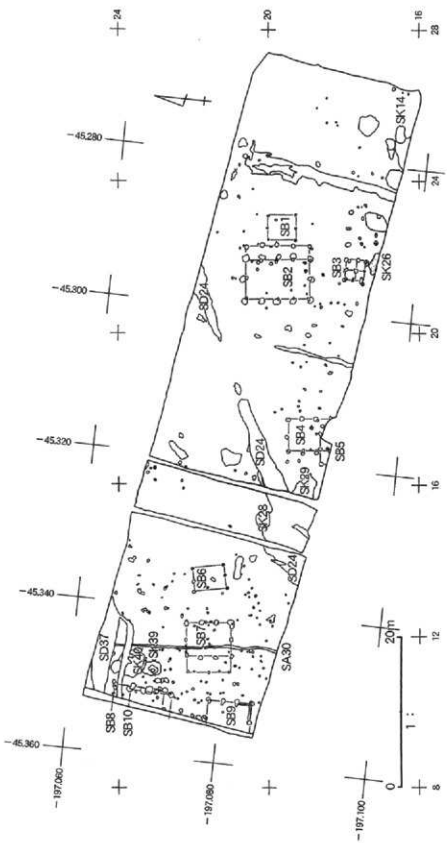
遺跡は馬見ヶ崎川扇状地の扇端部にあたり、自然堤防上の微高地に立地する。地目は水田となっているが、東側は砕石による盛土が行われ、近年はリース会社、資材置き場などに利用されていた。また西側は休耕地となっている。付近の標高は121～122mを測る。

4　検出された遺構と遺物

検出された遺構は奈良・平安時代の掘立柱建物跡10棟、杭列１条、土坑、溝跡、河川跡、柱穴、近世～現代の溝跡等である。掘立柱建物跡はそのほとんどが南北棟で主軸方位はほぼ磁北と同じくする。中には柱根が残っているものも確認された。重複関係から少なくとも２時期以上の変遷が考えられる。又、掘立柱建物跡群と主軸を揃える杭列が検出され、建物を区画する塀等があったものと考えられる。土坑や河川跡から遺物が多く出土している。墨書土器や意図的に破壊したと見られる土器片も見受けられたため、捨て場兼祭祀的な役割を持っていたものと推測される。奈良・平安時代の遺物は時期的には８世紀後半から９世紀前葉に当てられ、転用硯等も出土している。近世～現代の溝跡は用水路と思われ、磁器片等が多数出土している。

5　まとめ

本遺跡は事業地内の都市計画道路の建設工事に先立って発掘調査を実施したものである。調査では奈良・平安時代の掘立柱建物跡10棟をはじめとする遺構、土師器、須恵器などの遺物が出土した。吉原Ⅰ・Ⅱ遺跡の同時代の掘立柱建物と主軸方向や規模を同じくする一方、比較的遺物の出土量が多く、集落の機能・性格の違いが考えられる。



第15図　吉原Ⅲ遺跡遺構配置図

吉原Ⅳ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成９年度新規登録
所在地　山形市三つ江
調査原因　山形市吉原土地区画整理事業
調査面積　280㎡
調査期間　平成９年度　B調査　1997／７／22～８／７
調査担当者　平成９年度　武田和宏　齋藤仁

2　調査の経緯

吉原Ⅱ遺跡が平成９年４月からの発掘調査により、大型の掘立柱建物群を中心とした官衙関連の遺跡である可能性が高いと判断された。そのため７月から８月にかけて、調査範囲を県道の西側まで広げて同遺跡の範囲確認調査を実施した。その結果、吉原Ⅱ遺跡の南約 100mの地点で、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが検出された。ただしここからは吉原Ⅱ遺跡のような大きな掘り方で構成されるような掘立柱建物跡は検出されず、竪穴住居を主とする集落跡と考えられ、また吉原Ⅱ遺跡との間には空白地帯があるため、別の遺跡と考えられた。よってこれを「吉原Ⅳ遺跡」とし、新規登録した。なお、一部トレンチについては道路工事が差し迫っていたため、拡張して工事部分の調査を実施している。

3　遺跡の立地と環境

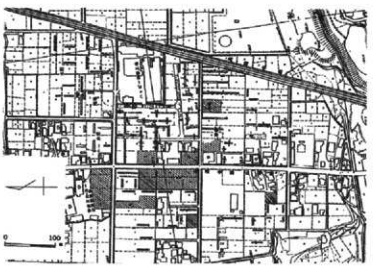
吉原地区は山形市街地南部にあり、東方の蔵王山麓から流れ出る犬川や竜山川によって形成された小規模な扇状地形の扇端付近にあたると思われる。南から流れてくる須川は、吉原地区でやや西に流路を変えてさらに北流してゆく。そのため、吉原Ⅰ遺跡や若宮の権の南辺はこの須川によって侵食を受けて段丘状になっている。山形盆地への入り口でもあるこの地区は、旧くは羽州街道がこの地区を通っていたとされる。また須川にも接していることから、旧くから交通の要衝であったと考えられている。遺跡から南西方向にある小松原丘陵上一帯には古代の窯跡群が確認されている。現況は工場・宅地および水田で、標高は約122mである。

4　検出された遺構と遺物

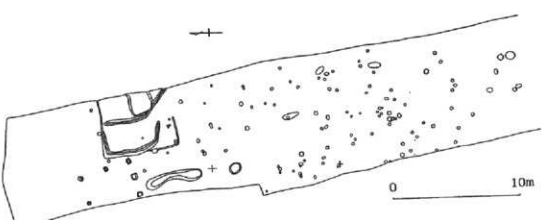
検出された遺構は、竪穴住居跡１棟・掘立柱建物跡１棟・土壙とピットなどである。竪穴住居跡は約５m四方の方形で南壁やや東寄りにカマドがある。検出段階ですでに床面がほとんど露出し、残存状況はよくないものの、カマド付近に集中して遺物が出土した。出土遺物は須恵器の坏や土師器の甕などである。掘立柱の建物跡は全体を検出していないものの、南北２間・東西２間以上の規模と推定される。また柱の掘り方の大きさは、一辺が40～50cm程度である。その他ピットが多数検出されているが、建物を構成し得るものはない。

5　まとめ

今回検出された掘立柱建物跡は、吉原Ⅱ遺跡などのものと比べると規模が小さく、また周辺からも大きな建物跡は検出されていない。よって吉原Ⅳ遺跡は竪穴住居を中心とした一般的な集落遺跡と考えられる。しかし時期的には、竪穴住居跡から出土した須恵器が糸切りながら底径が大きく器高が低いという特徴を示すことから、吉原Ⅱ遺跡と同じかやや新しい時期と考えられる。
なお、調査内容の詳細については、現在整理途中である。



第16図　吉原Ⅳ遺跡調査概要図



第17図　吉原Ⅳ遺跡遺構配置図

吉原Ⅴ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成９年度新規登録
所在地　山形市三つ江
調査原因　山形市吉原土地区画整理事業
調査面積　100㎡
調査期間　平成９年度　B調査　1997／11／10～13　C調査　1998／３／16～26
調査担当者　平成９年度　武田和宏

2　調査の経緯

吉原Ⅱ遺跡が平成９年４月からの発掘調査により、大型の掘立柱建物群を中心とした官衙関連の遺跡である可能性が高いと判断された。そのため７月から８月にかけて同遺跡の範囲確認調査を実施した。しかし、一部北側の水田や畑地については作付けがなされていたことから未調査であったため、作物の収穫が終わるのを待ちって11月に同調査を実施した。

その結果、吉原Ⅱ遺跡は北側の畑地まで広がることがわかった。また北西側に縄文時代中期の土器の破片が多く出土する地点があることも確認された。これを「吉原Ⅴ遺跡」として新規登録した。そして急遽、一軒の個人宅について年度中に着工しなければならない状況となり、年度末の２週間で約100㎡の調査を実施することとなった。

3　遺跡の立地と環境

吉原地区は山形市街地南部にあり、東方の蔵王山麓から流れ出る犬川や竜山川によって形成された小規模な扇状地形の扇端付近にあたると思われる。南から流れてくる須川は、吉原地区でやや西に流路を変えてさらに北流してゆく。そのため、吉原Ⅰ遺跡や若宮の楯の南辺はこの須川によって侵食を受けて段丘状になっている。山形盆地への入り口でもあるこの地区は、旧くは羽州街道がこの地区を通っていたとされる。また須川にも接していることから、旧くから交通の要衝であったと考えられている。遺跡から南西方向にある小松原丘陵上一帯には古代の窯跡群が確認されている。吉原Ⅴ遺跡は、吉原Ⅱ遺跡と同様に吉原地区の遺跡群のなかでももっとも高い地点にあり、標高は約122mである。遺跡周辺の地形は、東から西へ緩く傾斜する地形で、現況は宅地および水田である。

4　検出された遺構と遺物

調査区は10×10mで、２mグリッドを設定して調査を実施した。層序は、表土15～20㎝（Ⅰ層）、遺物包含層５～10㎝（Ⅱ層）、その下層は黒色シルト質土の無遺物層（Ⅲ層：地山）で、さらに下層は砂層（Ⅳ層）となる。

出土遺物は縄文時代中期の大木８a・８bを中心とした土器片で、多量に出土したが完形のものはない。また石器も含まれ、石鏃なども数点採集されている。主なものは出土位置のドットをおとして取り上げたが、その他についてはグリッドで取り上げた。地山は北東から南西方向へ緩く傾斜しており、それに伴い遺物の分布密度も薄くなっている。なお、地山面について精査をおこなったが、遺構は確認されなかった。

5　まとめ

遺物は土器片を中心に天箱にして約16箱ほど出土しているが、それらの遺物のまとまりの無い出土状

況や遺構等も検出されないことなどから、この調査地点は「捨て場」的な場所と考えられる。地山面が北東から南西へ傾斜する地形であることから、住居跡などの生活遺構はより標高の高い調査区北側の宅地部分に存在するものと思われる。

なお、出土遺物などについては現在整理作業途中である。

第18図　吉原Ⅴ遺跡調査概要図

吉原Ⅵ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成11年度新規登録
所在地　山形市柳原
調査原因　山形市吉原土地区画整理事業地内における特別養護老人ホーム建設工事に伴う敷地造成
調査面積　1,800㎡
調査期間　B調査　1999／5／20　C調査　1999／7／13～8／27
調査担当者　B調査　武田和宏　C調査　植松薫　高橋拓

2　調査の経緯

平成11年度事業地内において、特別養護老人ホームの建設が予定されたため，遺跡の有無についての調査を実施したところ、敷地予定地のほぼ中央に竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの遺構、土師器や須恵器などの遺物が確認された。その後協議の結果、遺跡の所在する部分については特別養護老人ホーム建設に先立って、遺跡の記録保存の調査を実施することとなり、現場における発掘調査を同年7月13日から8月27日まで実施した。

3　遺跡の立地と環境

遺跡は馬見ヶ崎川扇状地の扇端部、犬川左岸の微高地上に立地する。犬川は遺跡の北約20mを西流する。地目は水田であり、現況は水田の耕作がなされていないため休耕地となっていた。付近の標高は117m前後を測る。

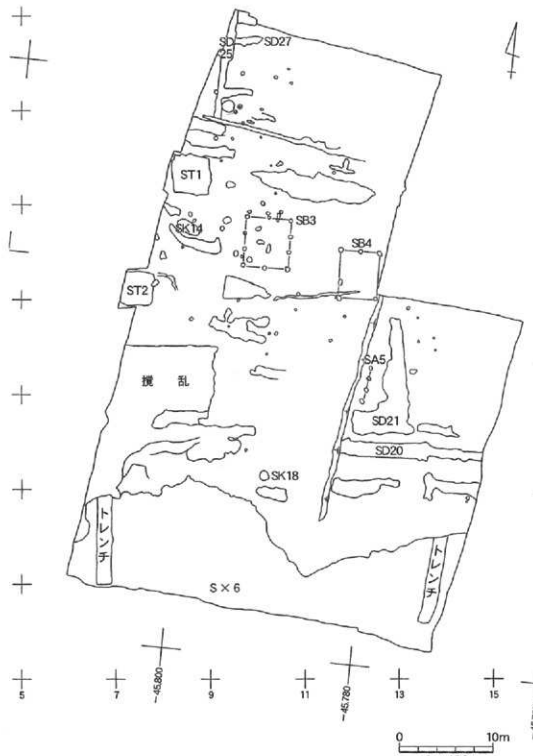
4　検出された遺構と遺物

調査の結果、奈良・平安時代と近世の遺構・遺物が確認された。奈良・平安時代の遺構では、竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡2棟、土坑、溝跡、柱穴、ピット等の遺構が検出された。竪穴住居跡はカマドを有するものとカマドを持たないものが見られる。掘立柱建物跡の内訳は2×3間が1棟、2×1間が1棟であり、いずれも南北棟である。また柱列は柱穴が4基並ぶ。遺物では須恵器坏、蓋、甕、土師器甕などが出土しており、時期的には9世紀前半を主体とするものと考えられるが、一部8世紀後葉に溯る遺物も見られる。

近世の遺構では東西に伸びる溝跡が検出された。覆土より寛永通宝が出土している。

5　まとめ

今回の調査は吉原土地区画整理事業地内における特別養護老人ホームの敷地造成に先立って実施したものである。調査の結果、奈良･平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡や近世の溝跡が検出された。吉原地区のこれまでの発掘調査では掘立柱建物が主体的に検出されているが、吉原Ⅵ遺跡では竪穴住居と掘立柱建物が混在している。集落の性格、または時期の違いなどの何らかの要因があるものと推測される。



第19図　吉原Ⅵ遺跡遺構配置図

吉原Ⅶ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成11年度新規発見
所在地　山形市大字吉原
調査原因　民間宅地開発事業
調査面積
調査期間　A調査　1999／12
　　B調査　1999／12／20～1999／12／22
調査担当者　武田和宏　植松薫　國井修

2　調査の経緯

当該地区に民間宅地開発事業の計画が立ちあがり、開発地域内において遺跡の有無の照会があり、それを受けて、試掘調査を実施した。開発地域内に試掘坑を設定し、重機ないし人力により遺構・遺物の有無を確認し、また、検出した遺構の一部を、時代を推定するために、精査を実施した。

3　遺跡の立地と環境

主要地方道山形・上山線坂巻跨線橋西側、市西部を北流する須川と竜山川の合流地点の舌状に張り出す段丘上に立地している。但し竜山川は過去に河川改修により流路に改変が加えられており、現在、遺跡の立地する部分は中州のような状況を呈す。竜山川対岸には吉原Ⅰ～Ⅵ、若宮の椿などの遺跡が所在している。

4　検出された遺構と遺物

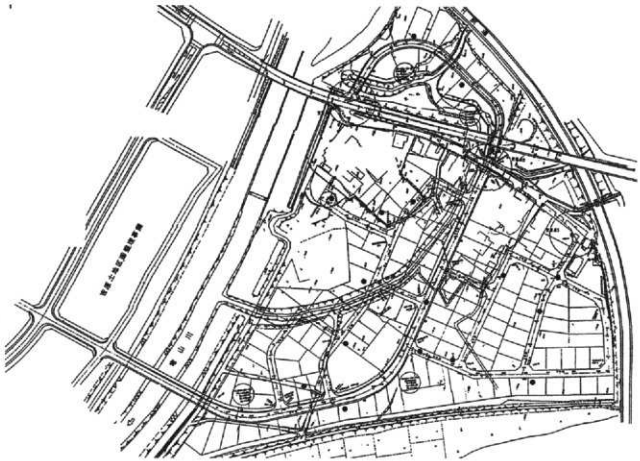
今回の調査では、開発地域の北東部の段丘上でのみ、遺構・遺物が検出された。そのほかの部分では、耕作土直下が旧川床と思われる砂礫層となる。

検出された遺構は、溝跡１条、土坑１基、不明ピット１基である。溝跡の一部を精査した結果、覆土の中から、９世紀中葉のあかやき土器、須恵器が出土している。溝跡は真北に直交するように伸びており、集落を囲む区画溝の可能性がある。

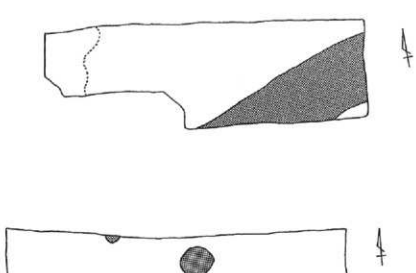
5　まとめ

調査の結果、開発地域内のほとんどの部分には遺跡の所在しなかった。上記のように、遺跡が所在するのは、遺構が検出された段丘上の範囲に限定され、また遺跡の立地する段丘の縁辺も過去にかなりの切土及び盛土が行われていた。その他の試掘坑は旧河川の河床と推定される礫層の上に、厚く客土が行われており、周辺住民の聴き取りでも同じような結果が得られた。

遺跡の年代は、出土遺物から９世紀中葉と推定される。北方に位置する吉原Ⅰ～Ⅵ遺跡と近接する年代に位置することから、周辺に所在する遺跡との関連性を考慮する必要がある。



第20図　吉原Ⅶ遺跡調査概要図



第21図　吉原Ⅶ遺跡遺構配置図

成沢西遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成９年度新規登録
遺跡略号　ＮＳＷ
所在地　山形市桜田南
調査原因　山形市成沢土地区画整理事業
調査面積　約1300㎡（第１次）　約1300㎡（第２次）
調査期間　平成７年度　Ａ調査　1995／４　Ｂ調査　1995／11／１～２・９　1996／３／26
　　平成10年度　Ｃ調査　1998／10／13～12／５（第１次）
　　平成11年度　Ｃ調査　1999／６／１～７／16（第２次）
調査担当者　平成７年度　武田和宏
　　平成10年度　武田和宏　茨木光裕　植松薫　五十嵐貴久
　　平成11年度　武田和宏　植松薫　五十嵐貴久　石山公亮

2　調査の経緯

平成７年度に山形市成沢地区において民間の組合施行による土地区画整理事業が開始されることとなった。事業規模が大きいことから、４月に事業地内の表面踏査を実施した。この調査により遺跡可能性地として２地点が確認されたため、同年11月にはこれらの遺跡可能性地において坪堀調査を実施した。その結果、遺跡可能性地の１地点から遺構・遺物が検出され遺跡と確認された。なおこの遺跡については、平成９年度に「桜田南遺跡」として新規登録したが、翌平成10年度に「成沢西遺跡」と名称を変更している。

遺跡の調査については、平成10年度までに事業が具体化してきたのに伴い、工事の進捗状況に合わせて進めて行くこととなった。同年10月には第１次として街区道路にかかる約1300㎡について調査を実施している。

3　遺跡の立地と環境

成沢地区は山形市の南部にあり、須川の中流右岸に位置する。東から南にかけては蔵王山麓が迫り、山形盆地の南端に位置する。遺跡は、同地区の西側を北流する須川と、北側を北西方向へ流れる坂巻川の合流点付近にあり、特に須川は遺跡の西側に接するように流れる。現況は果樹畑および工場で、これよりやや低い周辺部では水田が営まれる。標高は約120m前後で、須川面との比高差は３mほどである。なお、山形市で調査している吉原地区の遺跡群は、ここから約1.5kmほど下流の同じ須川の縁辺に営まれた遺跡である。

4　検出された遺構と遺物

１・２次の調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡が大型の２棟を含めて合計６棟、竪穴住居跡４棟、溝跡１条、土壙３基、落とし穴遺構４基、その他ピット、畠状の遺構などである。

特に、ＳＢ01･02とした２棟の大型の掘立柱建物跡は注目される。ＳＢ01は梁行２間×桁行７間以上の、南北に長軸があり、東西および北の三面に庇が付く建物である。柱の掘り方の規模は一辺が１m前後と非常に大きく、柱の直径は約20cmである。このすぐ東側に近接して、梁行２間×桁行５間以上で、やはり南北方向に長軸があり、東面にのみ庇が付くＳＢ02が立ち並ぶ。柱の掘り方は一辺が80～90cm

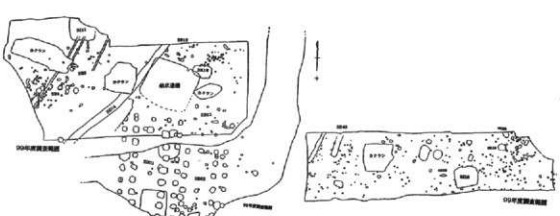
程度である。ただし、いずれの建物も南端は調査区外となり全体の規模は不明である。竪穴住居跡は4棟検出されているが、ここから出土する遺物は、主としてあかやき土器の坏や土師器の甕などで、須恵器の坏の破片は少ない傾向にある。これは遺跡全体でも同様である。また、ＳＫ13とした土壙からは2片の緑釉陶器が出土している。

5　まとめ

ＳＢ01･02の柱の掘り方やＳＩ01などの住居から出土する遺物とはほぼ共通しており、竪穴住居と掘立柱建物との時期差はほとんどないと思われる。またＳＢ01･02はかなり近接して立ち並ぶが、建物の長軸見事に一致しており、同時存在の可能性が高いと思われる。以上のことから、出土遺物から判断して、この遺跡は10世紀前葉を中心とした時期に営まれたものと考えられる。また、非常に大きな掘立柱建物跡であることや一般的な集落遺跡では出土しないと思われる緑釉陶器の存在などから、成沢西遺跡は官衙に関連する遺跡と考えられる。

なお、調査内容については現在整理途中である。

第22図　成沢西遺跡調査概要図



第23図　成沢西遺跡遺構配置図

観音堂遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成11年度新規登録
遺跡略号　KND
所在地　山形市大字青田
調査原因　芸工大前土地区画整理事業
調査面積　約300㎡(試掘坑延面積)
調査期間　平成10年度　B調査　1999／3／15～26
調査担当者　平成10年度　武田和宏　五十嵐貴久

2　調査の経緯

観音堂遺跡は、山形市芸工大前土地区画整理事業に係わり発見された新規登録の遺跡である。当該土地区画整理事業に関連して、市教委では埋蔵文化財の有無とその取扱いについて同組合より照会を受け、既知の遺跡は未確認の範囲であったため、協議の結果事業者経費負担により緊急の遺跡分布調査を実施する事となった。調査は現地の地目が水田・果樹畑にあたる事から農繁期を避け、また現地が急傾斜の扇状地形上であったことから作業員による手掘りで試掘坑を掘り、遺構・遺物等の確認と土層堆積の観察を行うこととし、現地調査を平成11年3月に実施した。

3　遺跡の立地と環境

観音堂遺跡は、山形市大字青田に所在する。瀧山に源を発する滝山川により形成された扇状地の扇央部に位置し、標高は約160mである。この扇状地は扇頂部の岩波付近で標高約250m、扇端部の元木付近で約120mとなり、傾斜角度は3.5 /100mでかなり急傾斜である。

遺跡周辺の地域は、長い間の山形市街化の拡大に伴い、西側より宅地としての土地利用が盛んになってきたが、遺跡付近より東側の扇頂部にかけては一部畑地・果樹栽培地があるがほとんどが水田として利用されてきた経緯があり、少なくとも近世以降はこのような状況で屋敷が散在する農村であった事が古図等からうかがえる。遺跡は周囲よりやや微高地形上に立地し、現在も利用されている街路は以前より山頂部へ近い集落への道路だった事が伝えられており、住宅もまた集中する傾向がある。その南北の土地は水田で比高差があり、水利上の観点からも宅地として優位であった事がうかがえる。

また、上桜田地域は近年『東北芸術工科大学』が開学し、大学施設等の建設により周辺の環境が急速に変貌しつつある。

4　検出された遺構と遺物

当該事業地内の試掘調査において、およそ300にものぼる試掘坑を調査した。一帯は湧水や滝山川の氾濫による転石等を包蔵し調査は困難を極めたが、次の地点において遺構および遺物を検出した。

遺構は、TP397・398において柱穴を検出した。また、遺物は近・現代の遺物も非常に多いがTP388・401・426等が近世陶磁器類がまとまって出土している。

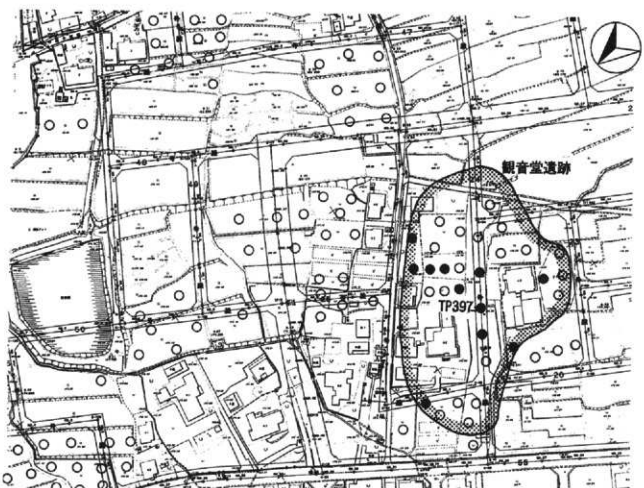
5　まとめ

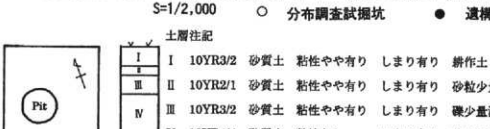
分布調査によりTP388～420にかけて、柱穴の検出および近世陶磁器類の出土が顕著であった。このことから、上記の範囲については中・近世の遺跡が所在することが確認された。

また、関係者の伝聞によれば、現在の「千手観音堂」は以前別の場所にあったものが移されたという

ことや、遺跡範囲に含まれる住宅を「観音前」と呼称する点から、遺跡は観音堂の前身的な堂宇も含めた社寺跡の可能性があると判断した。

このことから、下図に表す範囲を遺跡と認め、新規発見遺跡「観音堂遺跡」として平成11年度に登録した。





第24図　観音堂遺跡概要図

石田遺跡

1　調査要項

遺跡番号　県遺跡番号　８２
遺跡略号　ＩＳＤ
所在地　山形市大字谷柏地内
調査原因　東北電力変電所建設工事
調査面積
調査期間　B調査　1999／５／10～12
調査担当者　武田和宏

2　調査の経緯

平成10年12月に、山形市教育委員会に東北電力山形支店から変電所建設事業に係る埋蔵文化財の有無について照会があった。事業予定地の周辺には周知の遺跡として石田遺跡があったが、当時、隣接地では東北中央自動車道関連で山形県埋蔵文化財センターが同遺跡の発掘調査を実施しており、事業予定地は同遺跡の範囲外とされていた。しかし、周辺の水路などで古代の柱根と思われるような木柱が数本確認できたことから遺跡の広がりが想定されたため、事業予定地内について坪掘調査を実施することとした。

3　遺跡の立地と環境

谷柏地区は山形市の南部にあり、すぐ西に白鷹山から延びる丘陵が迫る。この付近は小規模ながら、本沢川や花川などの河川によって形成された扇状地形となっており、遺跡はこの扇状地の扇央付近にあたると思われる。標高は約 127mで、現況は一帯が水田となっている。県指定史跡である谷柏古墳群はここから約300m西方の丘陵上にあり、谷柏地区一帯を見下ろす位置にある。

4　検出された遺構と遺物

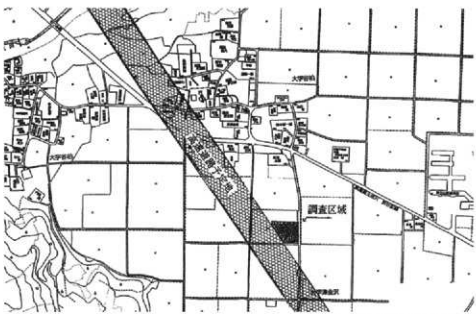
調査は工事予定地内において約10mのグリッドを仮に設定し、合計47ヶ所の坪掘調査を実施し、地山面まで掘り下げて遺構・遺物等の確認をおこなった。

調査の結果、11地点で柱穴などの遺構が検出された。また土師器や須恵器などの土器片も多く出土し、遺跡の存在が明らかになった。また北西から南東方向へ流れるような小規模な河川跡も想定された。調査区の周辺、特に高速道路用地の水路などでも、明らかに古代の柱根と考えられるものが広い範囲で露出し、また須恵器の破片なども多く採集された。

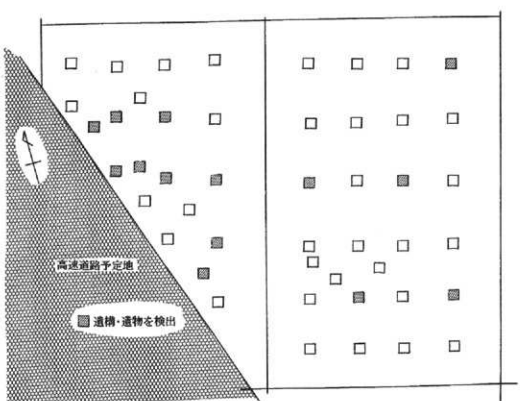
5　まとめ

工事予定地は高速道路用地部分も含め、広範囲に広がる遺跡であると考えられた。この遺跡は、小河川の両岸の自然堤防上に掘立柱建物跡を中心とした集落が営まれたものと想定された。また採集された遺物の特徴などから、平安時代の遺跡と考えられた。

この遺跡については、周知の遺跡である石田遺跡と一連のものと判断した。また工事の実施に際しては全面的な発掘調査を実施する予定である。



第25図　石田遺跡調査概要図



第26図　石田遺跡試掘概要図

西ノ宮遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成５年度新規登録
遺跡略号　ＮＮＭ
所在地　山形市表蔵王地内
調査原因　工業団地造成
調査面積　約 780 ㎡　（第１次）
　　約 680 ㎡　（第２次）
調査期間　平成５年度　Ａ調査 1993／４
　　Ｃ調査 1993／６／16～７／15　10／19～10／28（第１次）
　　平成６年度　Ｃ調査 1994／６／２～７／15（第２次）
調査担当者　平成５～６年度　武田和宏

2　調査の経緯

平成５年度に、山形市で表蔵王地内に工業団地の造成が計画された。山形市教育委員会では、事業予定地内に周知の遺跡「戸刈田遺跡」が存在していること、また事業面積が大きいことなどから同年４月に埋蔵文化財との調整を図るために事業地内の表面踏査を実施した。その結果、周知の遺跡「戸刈田遺跡」および遺跡可能性地のあわせて２地点を確認した。引き続きこの２地点で試掘調査を実施したところ、戸刈田遺跡はすでに消滅していること、遺跡可能性地が奈良・平安時代の良好な遺跡であることを確認した。この遺跡を「西ノ宮遺跡」として同年度に新規登録している。

3　遺跡の立地と環境

遺跡は、山形盆地の最南端、隣接する上山市との境付近に位置する。すぐ東には蔵王山麓が迫り、遺跡の西約 500ｍを須川が北流する。この須川は蔵王山系に源を発し、東から迫る蔵王山麓と西の白鷹山からのびる丘陵の間を切り開くように北流して山形盆地に流れ出る。遺跡周辺の地形は東から西へやや急な傾斜地となるが、現況は一帯が水田で、標高は約 155ｍである。

4　検出された遺構と遺物

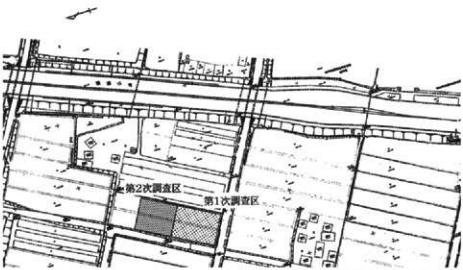
１次と２次の調査を通じて、西ノ宮遺跡は平安時代と中世の遺構が検出された。平安時代の遺構には、竪穴住居跡３棟・溝跡２条・その他土坑・ピットなどがある。竪穴住居は一辺が４～５ｍの方形と考えられ、南辺にカマドがある。耕地整理の際に削平を受けているため遺構の残りは良くないものの、カマド周辺からややまとまって遺物が出土している。

中世の遺構では掘立柱建物跡を 10 棟検出した。なかでも注目されるのは住居と想定されるＳＢ３・４・７である。特にＳＢ３・４は、２×４間の身舎で東と南北の三面に庇を有するＳＢ３と、２間四に２×４間で西側に庇が付くＳＢ４が棟続きとなる構造と推定される。またＳＢ７も２×３間の身舎に対し、南北両面に庇が付く構造となる。なお、ＳＢ３と７、ＳＢ10 と 11 が切り合う関係にある。

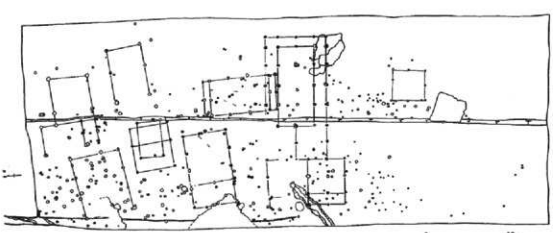
5　まとめ

西ノ宮遺跡では平安時代と中世の遺構が確認された。平安時代は竪穴住居で構成された集落で、年代的には出土遺物から９世紀中頃と考えられる。中世の頃には、ＳＢ７あるいはＳＢ３・４といった母屋と、ＳＢ８～13 の倉庫群で構成される屋敷となっていたと考えられる。ただし建物群のなかでも、建物同士

が切り合うこと、また建物の主軸方向がやや異なることなどから細かな時期差があったと思われる。なお詳細については、現在整理途中である。



第27図　西ノ宮遺跡調査概要図



第28図　西ノ宮遺跡遺構配置図

中野目Ⅰ・Ⅱ遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成11年度新規登録
遺跡略号　NKMⅠ・NKMⅡ
所在地　山形市大字中野目字赤坂
調査原因　宅地造成
調査面積　約50,000㎡(分布調査)　約300㎡(中野目Ⅱ遺跡)
調査期間　B調査　1999／11／8～12　C調査　1999／12／7～24(中野目Ⅱ遺跡)
調査担当者　五十嵐貴久

2　調査の経緯

平成11年度に特殊法人日本勤労者住宅協会業務委託団体,山形県労働者住宅生活協同組合より市内中野目における住宅団地の造成の旨照会があり、市教委文化課では緊急の遺跡分布調査を実施した。その結果、古墳時代～奈良・平安時代にわたる遺跡の所在を確認し新規登録したが、街区道路建設部分に関しては現状で遺跡の保護が困難であることから、中野目Ⅱ遺跡は平成11年度中に本調査を実施した。

3　遺跡の立地と環境

中野目Ⅰ・Ⅱ遺跡は、山形市大字中野目字赤坂に所在する。赤坂地内は中野目でも須川をはさんで西側に位置し,遺跡範囲の西～南側は東村山郡中山町と境をせっする。当地の地目は中野目Ⅰ遺跡が水田、中野目Ⅱ遺跡は果樹畑である。 両遺跡は、東側を北流する須川の自然堤防上に存在し、現状ではほぼ平坦である。標高はおおよそ94mを測る。分布調査の結果、中野目Ⅰ・Ⅱ遺跡の間及び両遺跡の北西側は遺構遺物がなく、須川に流入する水路等が埋没して存在することが確認され、低地で比較的水利に恵まれた環境であったことが予測される。

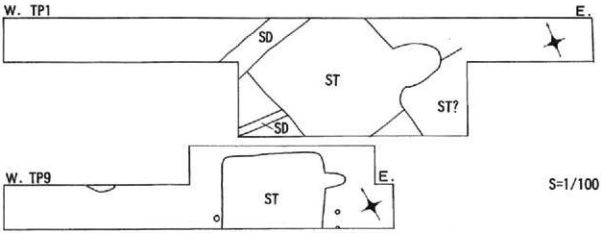
4　検出された遺構と遺物

分布調査は、事業対象地に合計31本のトレンチ及びテストピットを設定し、重機械により黄褐色遺構確認面まで掘り下げ、その過程で遺構及び遺物の存在を確認した。その結果、ＴＰ1・5・6・9・22・25・26・28・29で竪穴住居跡・柱穴・溝跡等の遺構及び古墳～平安時代の土師器・須恵器等が出土した。

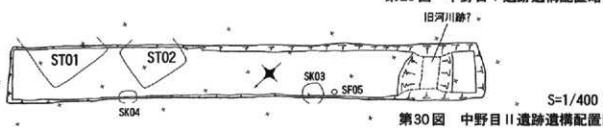
また、引き続いて行われた中野目Ⅱ遺跡の発掘調査においては、平安時代前期（９ｃ前半～中頃）の竪穴住居跡を2棟確認したほか、土坑・焼土遺構を検出した。遺物は主に竪穴住居跡覆土中より赤焼土器坏・甕、須恵器坏・蓋・甕もしくは壺・及耳坏等が出土したほか、土坑覆土より完形の須恵器坏が1点出土している。

5　まとめ

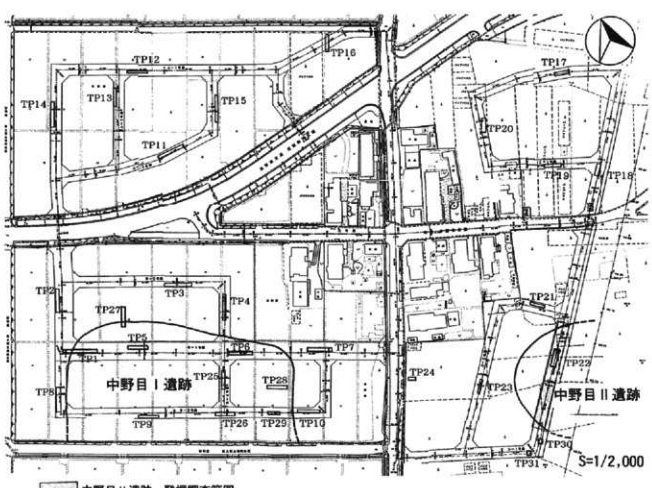
須川左岸の自然堤防上に営まれた古墳～平安期の遺跡であり、谷地形を挟んで中野目Ⅰ遺跡・中野目Ⅱ遺跡として登録した。中野目Ⅱ遺跡の発掘調査では竪穴住居跡の覆土から一括資料となる土器群が出土したが個体復元は困難で廃棄の状況を示すものと考えられる。



第29図　中野目Ⅰ遺跡遺構配置略図



第30図　中野目Ⅱ遺跡遺構配置図



第31図　中野目Ⅰ遺跡・中野目Ⅱ遺跡概要図

一ノ坪遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成９年度新規登録
所在地　山形市大字漆山
調査原因　市道立谷川・北志田線道路改良工事
調査面積
調査期間　平成10年度　A調査　1998／４／30　B調査　1998／12／25
　　平成11年度　B調査　1999／５／24～５／28
調査担当者　平成10～11年度　武田和宏

2　調査の経緯

平成10年度に市道立谷川・北志田線の道路改良計画が立ち上がった。この市道が接続する県道部分ではすでに県文化財課の試掘調査により「一ノ坪遺跡」の広がりが認められていたため、市道部分についても埋蔵文化財との調整が必要となった。平成10年４月30日から５月６日にかけて事業地内の表面踏査をおこなったところ、事業地内のほぼ全域から土師器や須恵器などの破片が採集され、同遺跡が広範囲に広がることが予想された。平成11年５月24日から28日には、用地買収の終わった部分について試掘調査を実施した。

3　遺跡の立地と環境

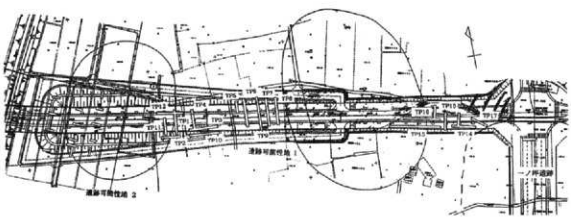
遺跡はＪＲ奥羽本線漆山駅の北方約600mほどの所にある。遺跡の北約500mを立谷川が東の奥羽山系から西へ流れ、この川の対岸は天童市になる。遺跡を含む一帯は、立谷川および村山高瀬川の２つの河川によって形成される扇状地となっており、現況は果樹園が広がる。遺跡はこの扇状地の扇端付近にあたると思われ、一部水田が営まれている。標高は112m前後である。

4　検出された遺構と遺物

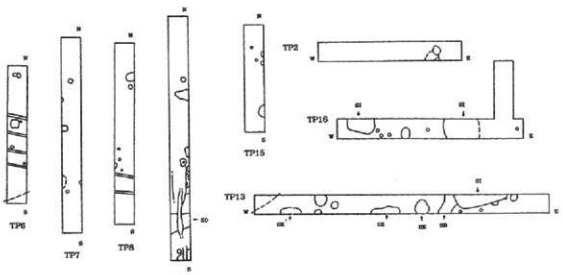
試掘調査で検出された遺構は、竪穴住居・溝跡・柱穴などである。ただし、これらの遺構の平面プランはあまり明確ではない。また立谷川の旧河道と考えられる痕跡なども確認できた。遺物では、奈良・平安時代のあかやき土器や須恵器、土師器が比較的多く、炭化物などとともに出土した。また、高坏の脚部や甕の破片など古墳時代の遺物も出土している。

5　まとめ

試掘調査の結果、古墳時代および奈良・平安時代の遺物が事業予定地のほぼ全域から出土することがわかった。平成11年度には隣接する県道部分で山形県埋蔵文化財センターにより同遺跡の調査がなされ、平安時代の遺跡であることが明らかになっている。また古墳時代の遺物も出土しており、同遺跡が県道部分も含めて広範囲に広がることが予想される。今後事業地内については全面を発掘調査し、記録保存を図る予定である。



第32図　一ノ坪遺跡調査概要図



第33図　一ノ坪遺跡遺構配置図

大森斉当遺跡

1　調査要項

遺跡番号　平成９年度新規登録
遺跡略号　ＯＭＳ
所在地　山形市大字大森字斉当
調査原因　特別養護老人ホーム建設工事
調査面積　200 ㎡
調査期間　平成９年度　Ｂ調査　1997／12／18～12／19　Ｃ調査　1998／１／20～２／10
調査担当者　平成９年度　武田和宏

2　調査の経緯

平成９年度に山形市が特別養護老人ホームの建設を計画したことに伴い、山形市教育委員会では近くに大森遺跡(縄文時代前期)があることから、業地内においても遺跡の有無を確認する必要があると判断し、平成９年12月に試掘調査を実施したものである。その結果、事業予定地内の広い範囲で縄文時代前期の土器片や平安時代の竪穴住居跡などが検出され、新規発見の「大森斉当遺跡」として登録した。

また事業の工期との兼ね合いで、建物の基礎にあたる一部分については調査を年度内に実施せざるを得ず、約 200 ㎡については平成10年１月から発掘調査を実施した。

3　遺跡の立地と環境

大森斉当地区は山形市の北東にあり、東には奥羽山脈の山麓が迫っている。北側を立谷川、南側を村山高瀬川が奥羽山脈から西方へ流れ下る。遺跡はこの２本の河川が複合的に形成した扇状地の扇央にあたり、標高は約 150mである。現況は基本的には果樹畑で、一部水田が営まれている。遺跡の北東約 100 mに縄文前期の大森遺跡があり、試掘調査時に出土した縄文土器の破片はここから流れ込んできた可能性がある。高瀬川を挟んで南西約 700mには中里遺跡が、また東方の大森山山頂には経塚などが存在する。

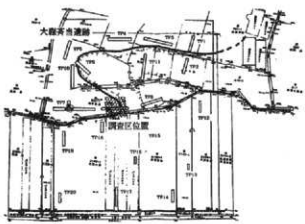
4　検出された遺構と遺物

試掘調査時に出土した遺物には縄文前期の土器片と須恵器の坏やあかやき土器の破片などがある。縄文土器片は調査区北側の広い範囲で出土し、須恵器やあかやき土器片は南西の竪穴住居を中心に出土した。いずれも果樹畑となっている微高地にあたり、一段低い南側の水田からは遺構・遺物ともに検出されなかった。

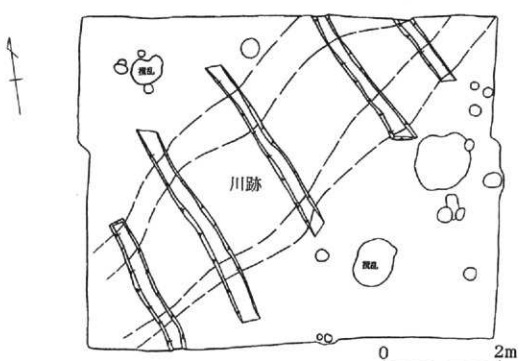
発掘調査はその果樹畑の約 200 ㎡について実施したが、検出された遺構は川跡とピットと土壙のみである。そのうち川跡が調査区の大部分を占める。川幅が約４m・深さ約 50㎝で、この川の落ち際からほぼ完形の須恵器の坏が２点まとまって出土した。ピット・土壙からは遺物の出土はなかった。

5　まとめ

試掘調査の結果から、遺跡は水田より一段高い北側の果樹畑に広がるものと考えられる。縄文時代前期の土器片も多く出土したが、これが伴う遺構がないことから、大森遺跡からの流れ込みと思われる。検出された竪穴住居は２～３棟であるが、共伴する遺物などから判断して、平安時代(９ｃ中頃)の集落跡と考えられる。なお調査内容については現在整理途中である。



第34図　大森斉当遺跡調査概要図



第35図　大森斉当遺跡遺構平面図

中里遺跡

1　調査要項

遺跡番号　県遺跡番号　１８３
遺跡略号　ＮＫＺ
所在地　山形市大字中里
調査原因　山形市立高楯中学校グランド拡張工事
調査面積　約2,300㎡
調査期間　平成11年度　Ｂ調査　1999／４／19～28　Ｃ調査　1999／９／６～10／20
調査担当者　平成11年度　武田和宏　高橋拓

2　調査の経緯

平成11年度、山形市教育委員会により市立高楯中学校のグランドの拡張工事が計画された。高楯中学校の敷地および周囲一帯は中里遺跡として周知の遺跡であり、過去に行われた校舎移転の際にも平安時代の竪穴住居を中心とした遺構などが検出されている。

平成11年４月19日から28日にかけて事業予定地約2,300㎡の全域で試掘調査を実施した。その結果遺構は不明瞭ながら、焼土および炭化物が検出され、また須恵器やあかやき土器などの遺物がまとまって出土することなどから、事業予定地のほぼ全域に遺跡が広がると判断した。

同年９月６日から10月20日にかけて発掘調査を実施したが、事業予定地が傾斜地であるため低い部分は盛り土で対応し、高い部分の切り土で破壊される約1,500㎡を調査対象とした。

3　遺跡の立地と環境

中里地区は山形市街地の北東にあり、東および南には奥羽山脈の山麓が迫っている。北を村山高瀬川が西流し、これにより周辺は小規模ながら扇状地形が形成され、遺跡はその扇央付近にあたると思われる。標高は125m前後で、現況は高楯中学校の敷地部分以外では、果樹あるいは畑地である。

4　検出された遺構と遺物

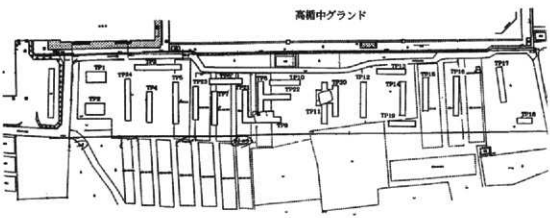
検出された遺構は、主なものでは住居跡３棟、土壙・ピットなどである。住居跡３棟はいずれも壁面の立ち上がりが不明瞭で、柱の位置も確認できなかったが、焼土を中心に炭化物や土器の破片が集中的に出土することから住居跡と判断した。ピットも多数検出されているが、ビニールハウスの基礎やこれに伴う暗渠などの撹乱が多く、建物などを構成するのは難しい状況であった。

また、調査区東側では北東から南西に流れたと思われる旧河道が検出された。

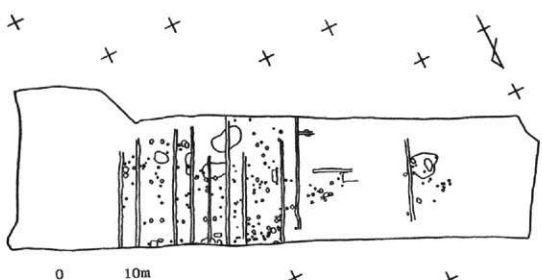
遺物は、あかやき土器や須恵器、土師器の甕などの破片が住居跡を中心に、多量の炭化物とともに出土した。

5　まとめ

遺構は撹乱などが多く、全体的に不明瞭であった。住居跡についても、炉跡と思われる焼土を中心に炭と混じってあかやき土器や須恵器の破片が集中的に出土する状況から判断したものである。調査区の東側では北東から南西方向に流れる高瀬川の旧河道が検出され、遺跡はこうした河川に挟まれた自然堤防上に営まれていると想定された。なお、調査内容の詳細については、現在整理途中である。



第36図　中里遺跡調査概要図



第37図　中里遺跡遺構配置図

第Ⅲ章　総括

平成５年度から平成11年度までに、調査した遺跡は、32 遺跡、そのうち新規発見遺跡は 18 遺跡にのぼる。特に、山形市吉原土地区画整理事業や山形駅西口再開事業に係る調査は、山形市内では、これまでにない大規模な調査である。吉原Ⅱ遺跡については、官衙に関連する遺跡であると推定される。双葉町遺跡では、山形城の城下町の変遷たどる上で重要な資料が多数見つかっている。また、嶋土地区画整理事業に係り調査を実施した河原田遺跡においては、弥生時代中期の木棺墓が検出されており、注目される発見となった。

山形城の復元工事に係る調査では、本丸一文字門の櫓脚が見つかるなど、当時の山形城の姿を知る上で貴重な発見があった。山形城の復元整備については現在も進行中である。

なお、平成５年度から平成 11 年度までに山形市教育委員会によって新たに発見された遺跡及び消滅が確認された遺跡は以下のとおりである。

新規発見遺跡

（遺跡名）	（所在地）	（時代）	（県遺跡番号）
大森斉当遺跡	山形市大字大森	縄文時代・平安時代	平成９年度新規
馬上台遺跡	山形市陣場新田	平安時代	平成５年度新規
西ノ宮遺跡	山形市大字蔵王半郷字西の宮	平安時代・中世	平成５年度新規
吉原Ⅰ遺跡	山形市吉原字若宮	平安時代・中世	平成８年度新規
吉原Ⅱ遺跡	山形市三つ江	平安時代	平成８年度新規
吉原Ⅲ遺跡	山形市若宮	平安時代	平成９年度新規
吉原Ⅳ遺跡	山形市三つ江	平安時代	平成９年度新規
吉原Ⅴ遺跡	山形市三つ江	縄文時代	平成９年度新規
吉原Ⅵ遺跡	山形市櫛原	平安時代	平成11年度新規
吉原Ⅶ遺跡	山形市吉原	平安時代	平成11年度新規
成沢西遺跡	山形市桜田南	平安時代・中世	平成10年度新規
中野目Ⅰ遺跡	山形市大字中野目字赤坂	古墳時代・奈良時代・平安時代	平成11年度新規
中野目Ⅱ遺跡	山形市大字中野目字赤坂	平安時代	平成11年度新規
梅在家遺跡	山形市下反田	平安時代	平成11年度新規
観音堂遺跡	山形市上桜田、青田	平安時代・中世・近世	平成11年度新規

消滅遺跡

（遺跡名）	（所在地）	（時代）	（県遺跡番号）
戸刈田遺跡	山形市蔵王半郷字戸刈田	縄文時代	60
田端稲荷塚	山形市田端	近世	平成３年度新規
梅野木前塚	山形市梅野木前	近世	平成３年度新規

山形市埋蔵文化財調査年報
平成5～11年度
2001年3月発行

発行　山形市教育委員会
山形市旅篭町二丁目3番25号
℡023－641－1212　〒990－8540
印刷　コロニー印刷
山形市桜田南391-2
℡023－641－1136　〒990－2322